



30MAM600
00X30-MAM-6000



本田技研工業株式会社

IPC 4359411S
PRINTED IN USA

GoldWing

SE



取扱説明書

HONDA

取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。

ご案内

このたびはホンダ車をお買いあげいただきありがとうございました。お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいたくホンダ販売店)または下記のく相談窓口)にお気軽に申しつけてください。

ホンダ二輪ディストリビュータ《お客様相談室》

全国共通フリーダイヤル 0 1 2 0 - 0 8 6 8 1 9 ハローバイク

本田技研工業株式会社《お客様相談センター》

地 区	電話番号	郵便番号	所 在 地
東 京	03(3423)4211	107	東京都港区南青山2-1-1
札 幌	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町2条10-2-29
仙 台	022(288)6561	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-10
名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4-22
大 阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2-12
福 岡	092(962)2466	881-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

●所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

ご乗車の前に

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。また整備手帳、セーフティポイント（安全にお乗りいただくためのアドバイス）もぜひお読みください。

- この車は、運転者を含めて2人まで乗車できます。

お買いあげになりましたら、ホンダ販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポイント」を受け取り、下記の説明を受けてください。

- ★お車の正しい取扱いかた
- ★保証内容と保証期間
- ★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
- ★点検・整備について

- 車両の仕様、その他変更により、本書の絵などが実車と異なる場合がありますのでご了承ください。

目次

4	安全運転のために	20	スイッチの使いかた
12	各部の名称	20	メインスイッチ
16	メータの見かた、使いかた	21	エンジンストップスイッチ
16	計器類	21	スタータ/リバース(後退)スイッチ
16	速度計(スピードメータ)	22	前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)
16	エンジン回転計(タコメータ)	22	警音器ボタン(ホーンボタン)
16	積算距離計(オドメータ)	22	非常駐車灯スイッチ (ハザードスイッチ)
16	区間距離計(トリップメータ)	23	方向指示器スイッチ
16	区間距離計ボタン (トリップメータボタン)	24	ウォッシュスイッチ/ワイパスイッチ
17	燃料計	26	装備の使いかた
17	水温計	26	ハンドルロック
17	ディスプレイ	27	ヘルメットホルダ
17	デジタル時計調整ノブ	28	後席用ステップ
18	警告灯・表示灯	29	ベンチレーション
18	燃料残量警告灯	32	フェアリングポケット
18	オイル警告灯	33	トランクサイドポケット
18	ニュートラル表示灯	34	トランク
18	後退表示灯	35	サドルバッグ
19	サイドスタンド表示灯	36	携帯バッグ
19	方向指示器表示灯	37	ツールボックス
19	前照灯上向き表示灯 (ハイビームパイロットランプ)	37	書類
19	オーバードライブ表示灯	38	シートカバー
19	自動定速走行装置マスタス イッチ表示灯	39	リヤクッション
19	自動定速走行装置セット表示灯	40	エアポンプ
		41	前照灯(ヘッドライト)の光軸調整
		42	後退装置
		44	自動定速走行装置
		48	オーディオシステム
		61	サイドカバー
		61	フロントサイドカバー
		62	シート

63	ガソリンの補給	81	6 か月点検
64	正しい運転操作	82	かじ取りホーク（フロント ホーク）の点検
64	エンジンのかけかた	83	ブレーキの点検
66	チェンジのしかた	87	タイヤの点検
67	走りかた	89	バッテリー液量の点検
68	ブレーキの使いかた	90	クラッチの点検
69	点検、整備を安全に行うために	90	エアクリーナエレメントの点検
72	法定点検	91	エンジンオイルの点検
73	運転前点検	92	燃料漏れの点検
74	前日の異状箇所の点検	92	冷却装置の点検
74	ブレーキの点検	93	灯火装置、方向指示器の作用の点検
76	タイヤの点検	93	シャシ各部の給油脂状態
78	エンジンオイル量の点検	94	簡単な装備
78	燃料の量の点検	95	エンジンオイルの補給
79	冷却装置の点検	97	バッテリー液の補給
80	灯火装置、方向指示器の点検	99	バッテリーターミナル部の清掃
80	後写鏡(バックミラー)の写影の点検	100	ヒューズの交換
80	ナンバープレートの汚れ、 損傷の点検	105	ブレーキ液の補給
80	反射器の汚れ、損傷の点検	107	冷却水の補給
		108	ウォッシュ液の点検・補給
		110	ワイパの点検
		111	ワイパブレードラバーの交換
		114	車のお手入れ
		115	ウインドスクリーンの取扱い
		116	アルミ部品の取扱い
		117	色物部品をご注文のとき
		118	マフラの純正マークについて
		119	フレーム号機
		120	エンジンが始動しないとき
		121	主要諸元
		122	サービスデータ

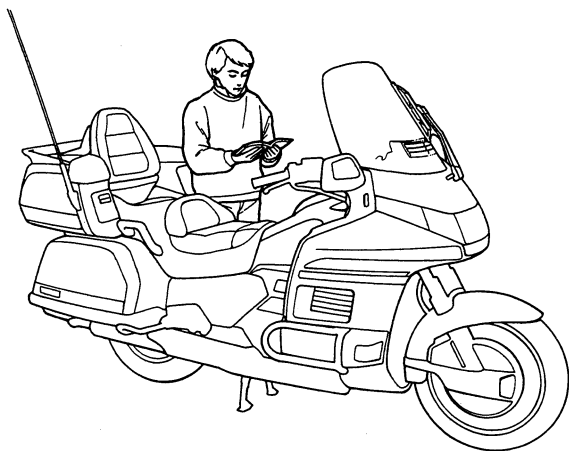
安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものですので、これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- 安全運転、迷惑防止のため違法改造はやめましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。

運転する前に

- 取扱説明書をよく読んでください。

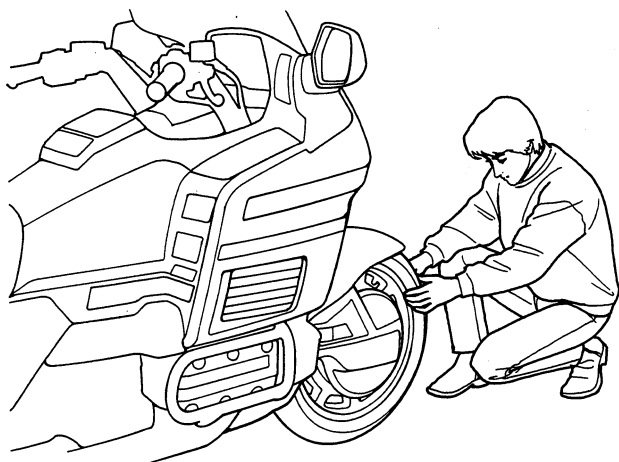


- **運行前点検を行ってください。**

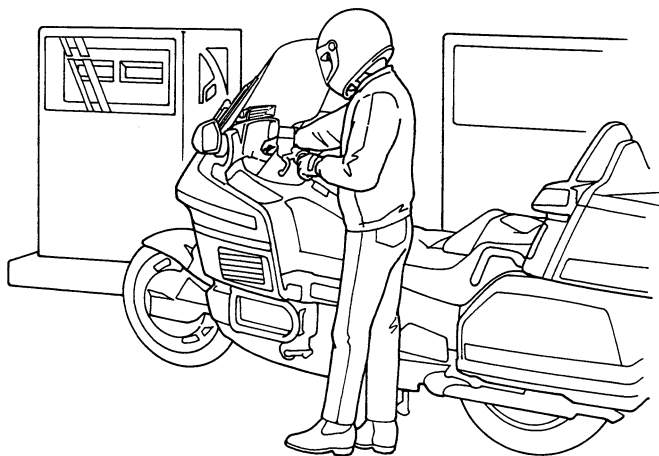
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
運行前点検は、73ページ参照。

- **6か月点検をうけてください。**

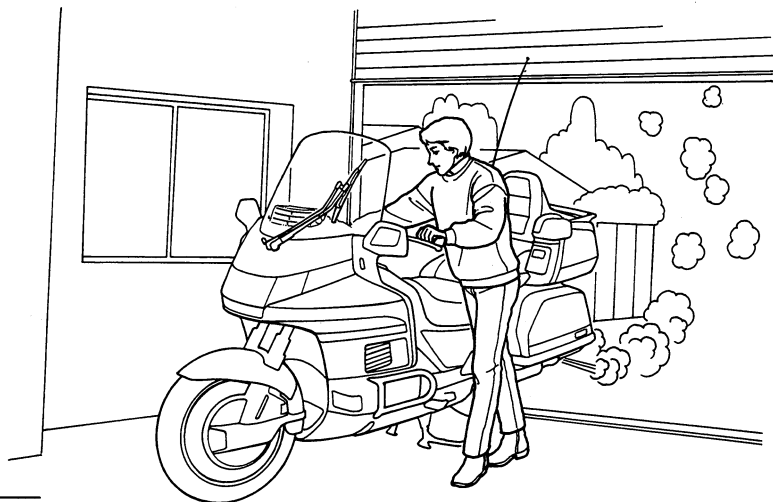
6か月点検は、81ページ参照。



- **ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。**

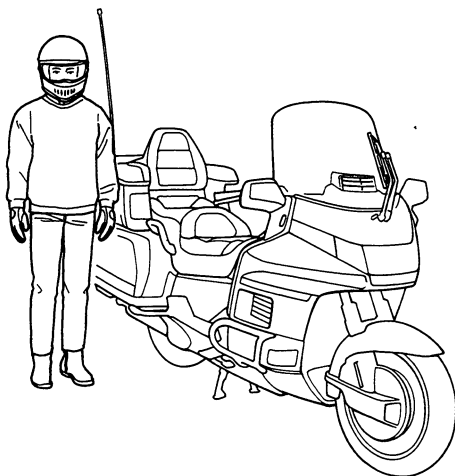


-
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



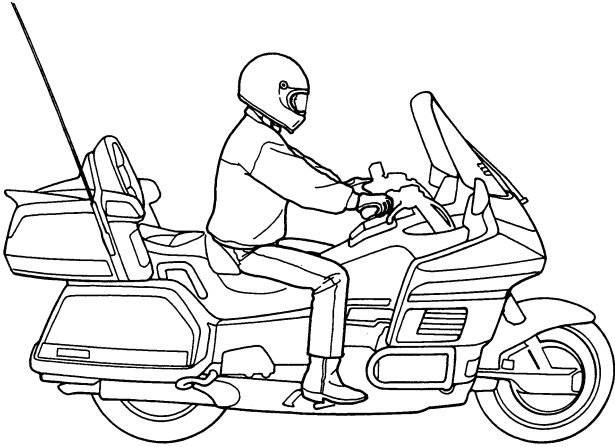
服装

- 運転者を守るヘルメットを必ず着用しましょう。グローブ・ゴーグルなど着用するよう心がけてください。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。ブレーキレバーやクラッチレバーに引掛かったり、回転部分に巻き込まれたりして危険です。
- ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものはやめましょう。

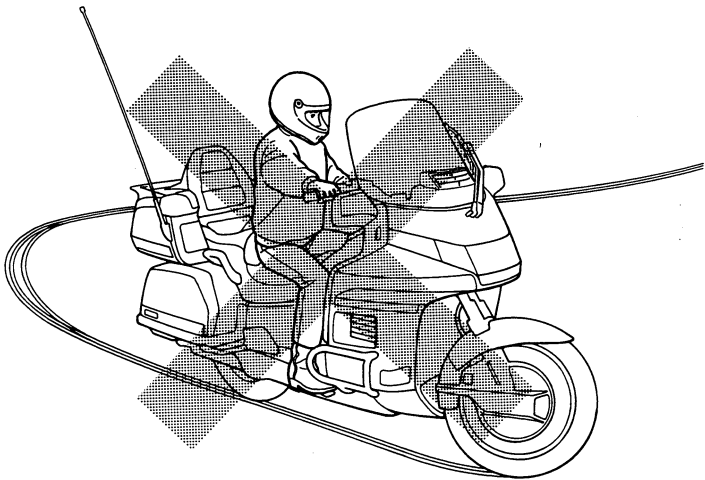


乗りかた

- 走行中は、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。うしろに乗る人には、両手でからだをしっかりと固定させ、両足は必ず、後席用ステップにのせてください。

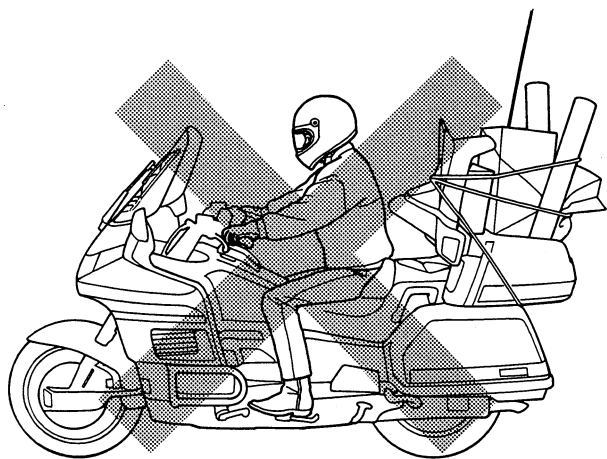


- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”、“左右のバランスをとる”など十分注意し、安全に走行してください。

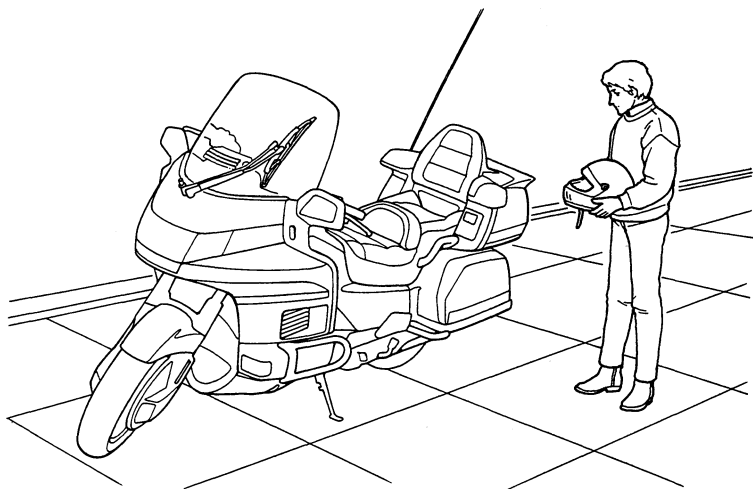


駐車

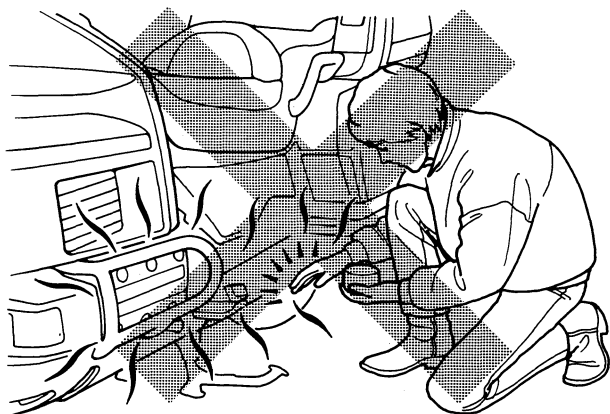
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。

サイドスタンドを使用するときの駐車について

- 車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。
次のような状態では、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
 - ・ハンドルを右にきった状態での駐車。
傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等での駐車
 - ・やむをえず上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。



-
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラの一部が熱くなっています。直接触れないでください。



改造

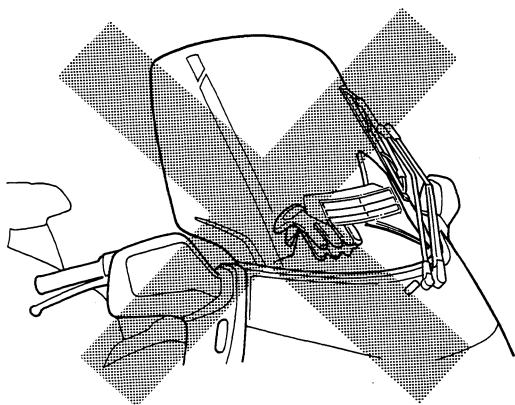
車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることとなります。

このような改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。

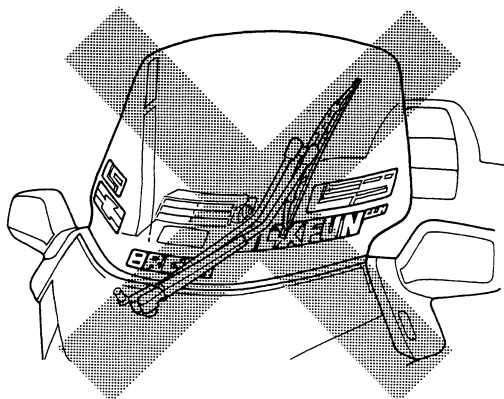
車の改造は保証が受けられません。

ウインドスクリーンについて

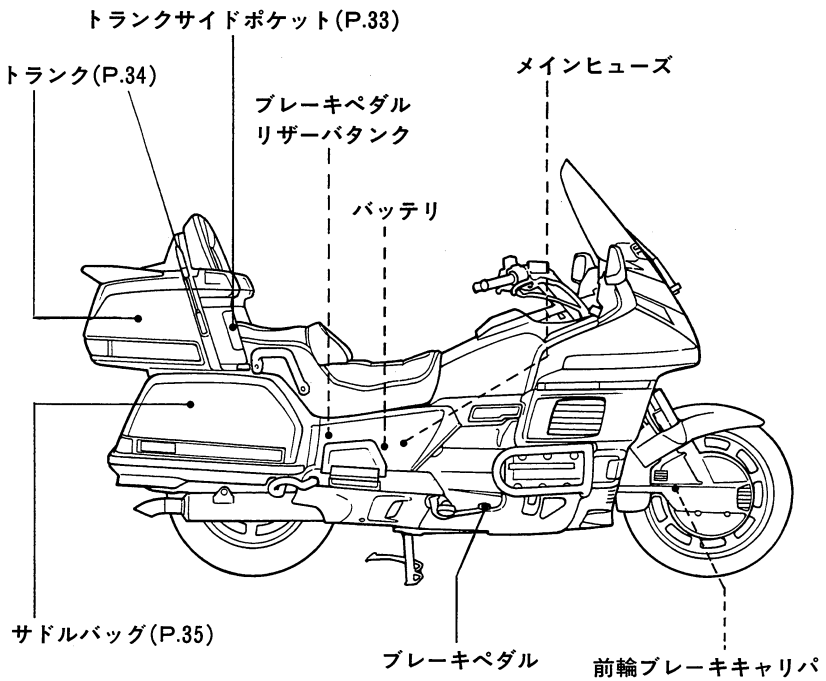
- ウインドスクリーンは安全視界を確保するためにいつもきれいにしてください。
- ハンドルまわりに物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響があります。

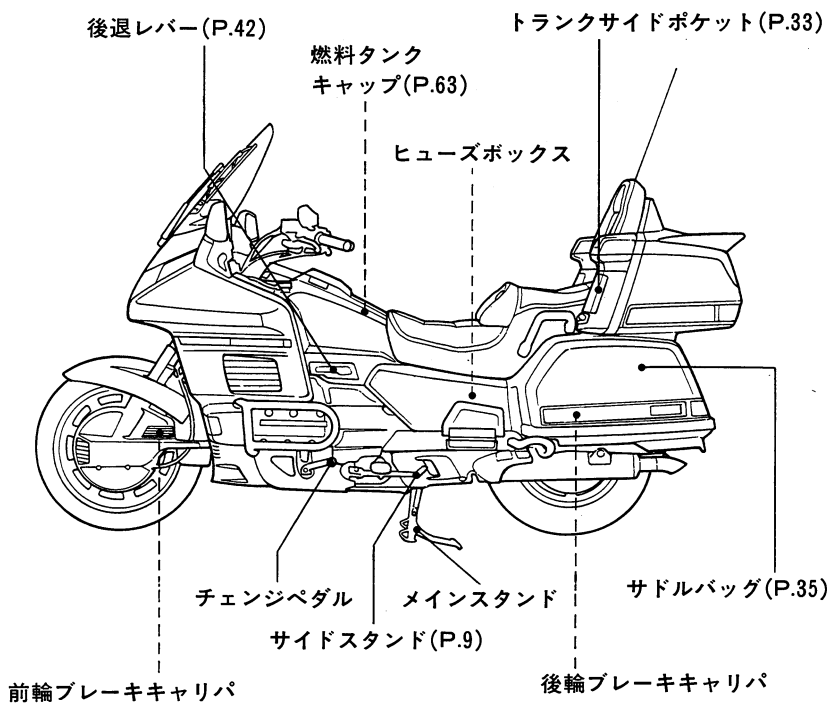


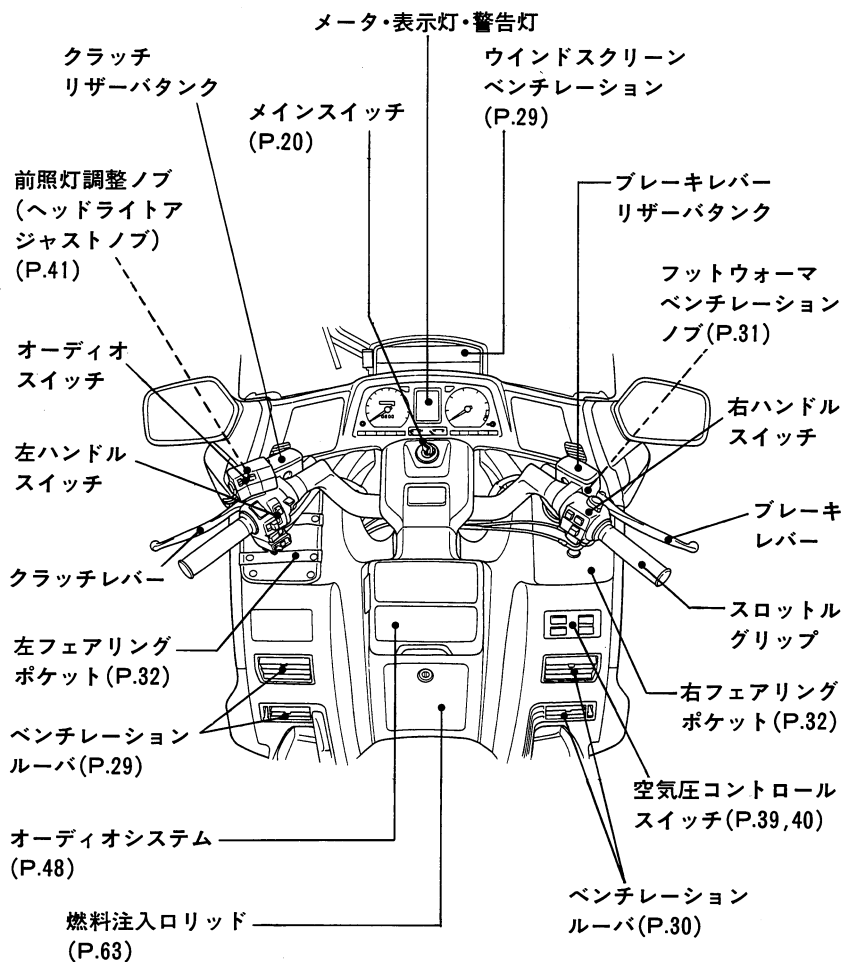
- ウインドスクリーンにアクセサリを取付けないでください。運転の妨げになるばかりでなく、アクセサリの吸盤がレンズのはたらきをして、火災などの思わぬ事故をまねくことがあります。
- ウインドスクリーンにシール類を貼ると、視界を妨げるばかりでなくスクリーンを汚損しますので、シール類は貼らないでください。

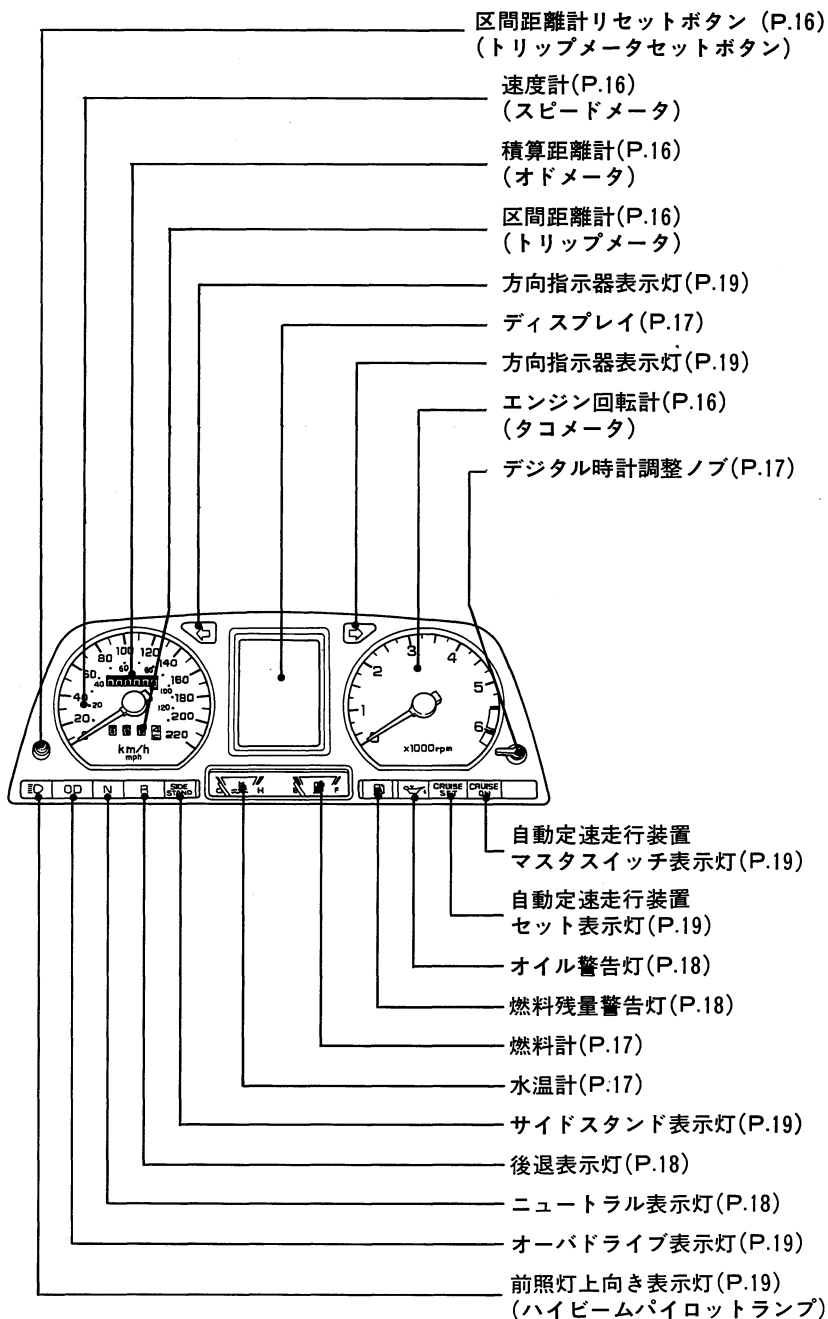


各部の名称









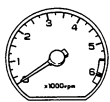
メータの見かた, 使いかた

計器類



速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。目盛はkm/hとmphで併記してあり、km/hは外側の目盛で表示しています。法定速度を守り安全走行してください。



エンジン回転計(タコメータ)

エンジンの回転数を示します。赤マークの範囲は、レッドゾーンを示しています。

注意

- 慣らし走行後もエンジン回転は、エンジン回転計(タコメータ)のレッドゾーンに指針が入らないように注意し走行してください。
- 空吹かし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。

レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものでレッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になりエンジン寿命に悪影響を与えます。



積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。



区間距離計(トリップメータ)

メータを“0”に戻した時点からの走行距離をkmの単位で示します。白地に黒数字は100mの単位です。

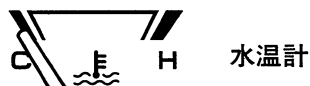


区間距離計リセットボタン(トリップメータリセットボタン)

ボタンを押すと区間距離計(トリップメータ)を“0”に戻します。



燃料計の指針は、燃料タンク内のガソリンの量を示します。ガソリンが減ってくると、指針は“F”から“E”に移動します。指針が赤マークに入ったら早めにガソリンを補給してください。このときの残量は、約4ℓです。



エンジン冷却水の温度を示します。走行中は、指針が目盛の赤マークより内側にあるのが正常です。指針が赤マークを指していたら、リザーバタンクの液量を点検してください。リザーバタンクの点検は、79ページを参照してください。

注意

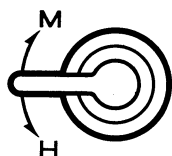
- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより、指針が赤マークを指す場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。



ディスプレイ

デジタル時計、リヤクッションの空気圧、オーディオシステムの表示を行います。

各機能に付いては、39、48ページを参照してください。



デジタル時計調整ノブ

ノブを動かすとデジタル時計の表示が進みます。

“時”の表示：ノブを“H”に動かします。

“分”の表示：ノブを“M”に動かします。

ディスプレイ



警告灯・表示灯



燃料残量警告灯

燃料残量警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。

ガソリンが減って残量が約4ℓで点灯します。

燃料残量警告灯が点灯したら早めにガソリンを補給してください。



オイル警告灯

オイル警告灯は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、エンジンを始動すると同時に消えるのが正常です。

走行中にオイル警告灯が点灯するのは、潤滑系統の異常です。エンジンを止めオイル量を点検してください。点灯したままの運転は避けてください。

注意

- 油温が非常に高くなるとアイドリング状態でランプが断続的につくときがありますが問題はありません。しかし、長時間（30分以上）のアイドリング運転は避けてください。

N

ニュートラル表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。後退レバーが後退の位置にあると消えます。

R

後退表示灯

後退表示灯は、メインスイッチを“ON”にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。

後退レバーが後退の位置にあるとき点灯します。

SIDE STAND

サイドスタンド表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありサイドスタンドが使用状態のとき点灯します。



方向指示器表示灯

方向指示器が点滅しているときに点滅します。



前照灯上向き表示灯(ハイビームパイロットランプ)

前照灯(ヘッドライト)の照射角が上向きするとき点灯します。



オーバードライブ表示灯

チェンジがオーバードライブ(OD)の位置にあるとき点灯します。

CRUISE ON

自動定速走行装置マスタスイッチ表示灯

自動定速走行装置マスタスイッチを押すと点灯します。

自動定速走行装置マスタスイッチは、メインスイッチを“ON”にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。

44ページの“自動定速走行装置”を参照してください。

CRUISE SET

自動定速走行装置セット表示灯

自動定速走行しているとき点灯します。

自動定速走行装置セット表示灯は、メインスイッチを“ON”にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。

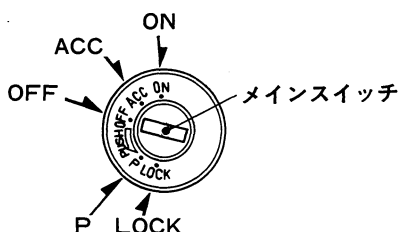
44ページの“自動定速走行装置”を参照してください。

スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作 用	キーの脱着
ON	<ul style="list-style-type: none">●前照灯(ヘッドライト)などが常時点灯する●全てのライト類が使える●オーディオシステムが使える●エンジン始動ができる	抜けない
ACC	<ul style="list-style-type: none">●オーディオシステムが使える●エンジン始動ができない	抜けない
OFF	<ul style="list-style-type: none">●電気回路を全部遮断する	抜ける
P	<ul style="list-style-type: none">●ハンドルのロックができる●番号灯(ライセンスライト)が点灯する●オーディオシステムが使える●エンジン始動ができない	抜ける
LOCK	<ul style="list-style-type: none">●ハンドルのロックができる●電気回路を全部遮断する	抜ける



注意

- 走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。
- 車をはなれるときは、ハンドルロックをかけて必ずキーを抜いてお持ちください。
- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。“ON”(エンジン停止)または長時間“ACC”、“P”の状態にしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

エンジンストップスイッチ

エンジンストップスイッチは、転倒など非常の場合に、手もとですぐにエンジンを止めるために設けたものです。

通常は“RUN”の位置にしておいてください。“OFF”の位置ではエンジンはかかりません。

注意

- エンジンストップスイッチは非常の場合以外は使用しないでください。

走行中にストップスイッチをRUN→OFF→RUNにすると、エンジン回転が不円滑となり、走行不安定の原因となります。またエンジンにも悪影響をおよぼすおそれがあります。

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止した場合、忘れずにメインスイッチを“OFF”にしてください。“ON”のままにしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

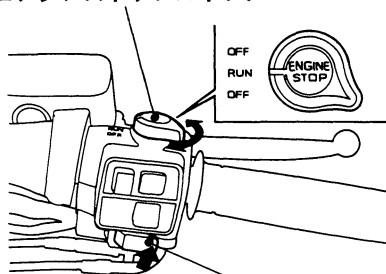
スタータ/リバース(後退)ボタン

ボタンを押している間、スタータモータが回転し、エンジンを始動させます。

注意

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いため、バッテリーがあがるおそれがあります。

エンジンストップスイッチ



スタータ/リバース(後退)ボタン

前照灯上下切換えスイッチ(ヘッドライト上下切換えスイッチ)

前照灯(ヘッドライト)の照射角を上下に切換えるスイッチです。切換えはスイッチを押して行います。

☉……前照灯(ヘッドライト)が上向き

☉……前照灯(ヘッドライト)が下向き

警音器ボタン(ホーンボタン)

メインスイッチが“ON”のとき、警音器ボタン(ホーンボタン)を押すと警音器(ホーン)が鳴ります。

非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)

スイッチを入れると、すべての方向指示器のランプが点滅します。故障等でやむを得ず路上駐車をするとき使用します。

《使いかた》

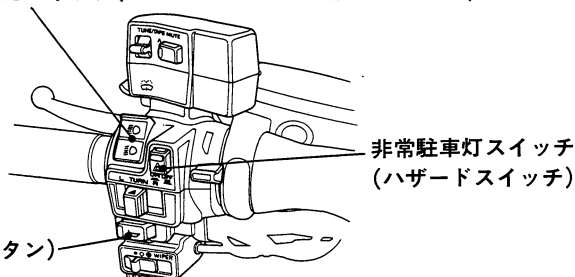
メインスイッチのキーを“ON”、“ACC”または“P”の位置にして非常駐車灯スイッチ(ハザードスイッチ)を押します。

解除は、非常駐車灯スイッチをもう一度押して行います。

注意

- 非常時にのみ使用してください。
完全充電のバッテリーでも約20分以上使用するとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。
- 非常駐車灯を使用した後は必ずスイッチを解除してください。解除しないと方向指示器は作動しません。

前照灯上下切換えスイッチ(ヘッドライト上下切換えスイッチ)



警音器ボタン(ホーンボタン)

非常駐車灯スイッチ
(ハザードスイッチ)

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを右または、左に動かすと、方向指示器が作動し側方照射灯(コーナリングランプ)が点灯します。

解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

R……右折 L……左折

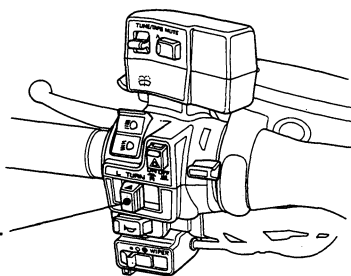
右左折後ハンドルを直進状態にすると方向指示器が自動的に消えます。

進路変更などハンドル操作角が少ない場合、方向指示器は約7秒後または約120m走行後、自動的に消えます。

注意

- 自動解除装置は走行状態で働く機構になっているため、停止状態では作動しません。
- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。

方向指示器スイッチ



ウォッシャスイッチ/ワイパスイッチ

メインスイッチが“ON”のとき使えます。

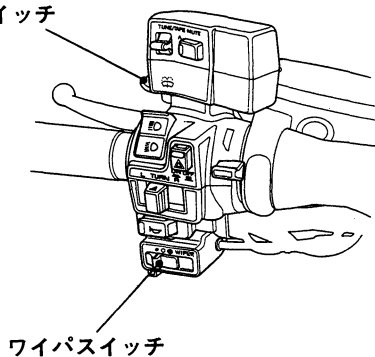
ウォッシャスイッチ

スイッチを押し下げるとウォッシャ液が噴射し、ワイパが1～2回作動します。

ワイパスイッチ

スイッチの位置	ワイパの作動
●	停止
○	間欠作動
●	連続作動

ウォッシャスイッチ



ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の注意事項をお守りください。

注意

- ウォッシュ液を噴射してからワイパを作動してください。空ぶきはウインドスクリーンに傷をつけたり、ワイパを傷めたりします。
- ウォッシュ液が出ないときには、ウォッシュスイッチを切ってください。ウォッシュ液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。なお、空ぶきを避けるため、早めにウォッシュ液を補給してください。
- 噴射されたウォッシュ液が走行条件により飛散し、衣服などを汚すおそれがあります。
- ウインドスクリーンに泥や虫などが固着している場合は、ウォッシュスイッチ・ワイパスイッチを使用しないでください。固着物がウインドスクリーンを傷つけます。スイッチを使用する前に固着物を水で洗い流してください。
- 寒冷時、ワイパブレード(ゴム部)がウインドスクリーンに張り付くことがあります。ぬるま湯でウインドスクリーンを暖めてからワイパを作動させてください。凍りついたまま動かすとワイパの故障の原因になります。
- ワイパブレード(ゴム部)がウインドスクリーンに張り付いた状態やウインドスクリーンに着氷、積雪した状態でワイパを動かすと、ワイパブレードを損傷したり、ワイパモータの故障の原因となります。必ず取り除いてから動かしてください。
- ワイパを止めるときはメインスイッチがONのままワイパスイッチをOFFにしてください。また、ウォッシュスイッチ・ワイパスイッチを切るタイミングにより、ワイパの停止位置が少しくずれることがあります。この場合、もう一度ワイパを動かし、タイミングを変えてスイッチを切ってください。

装備の使いかた

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

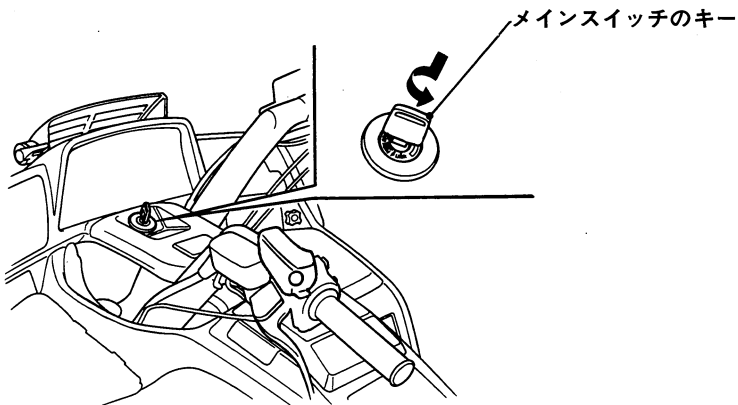
1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“P”または“LOCK”の位置まで回します。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

- かけかたの逆の要領で行います。

注意

- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- 走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であるかを確認してください。



ヘルメットホルダ

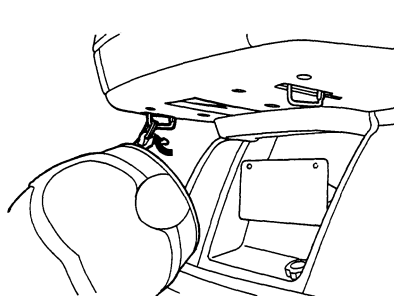
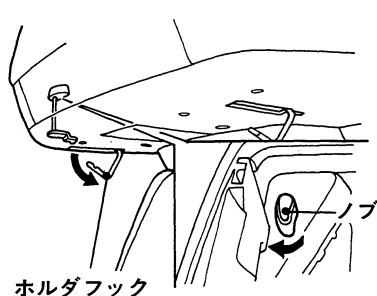
ヘルメットホルダを利用しますと、車を止めた時ヘルメットを持ち歩く必要がありません。また、ロックができますから盗難を予防します。ヘルメットホルダは、トランクの左右にあり個別に使用できます。

《使いかた》

1. トランクを開けます。
トランクの開けかたは、34ページを参照してください。
2. トランク内のノブを右に回し、ロックを解除します。
3. ホルダフックにヘルメットの金具をかけます。
4. ホルダフックを押し上げロックします。
5. トランクを閉じ、確実にロックします。
6. トランクロックよりメインスイッチのキーを抜き取ります。

注意

- ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えることがあります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。



後席用ステップ

後席用ステップは上下に動き、2段階に調整できます。

後席用ステップの上げかた

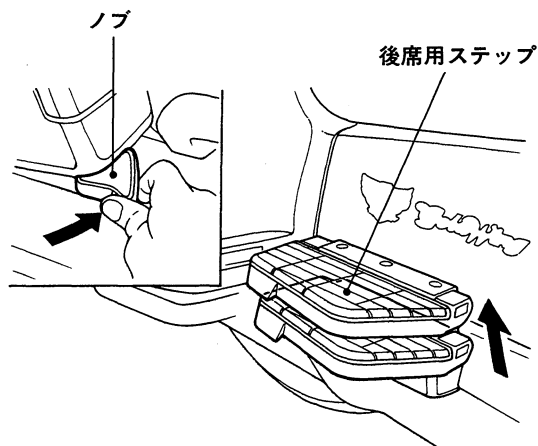
1. 後席用ステップから足を離します。
2. 右トランクサイドポケット近くのノブを押します。

後席用ステップの下げかた

1. ノブを押します。
2. 左右の後席用ステップの中央部を足で押します。
3. ノブから手を離します。
4. 後席用ステップを足で軽く押し、固定されたことを確認します。

注意

- 走行中に後席用ステップの調整は行わないでください。



ベンチレーション

この車にはウインドスクリーン ベンチレーション、ベンチレーションルーバ及び、フットウォーマ ベンチレーションが装備されています。

注意

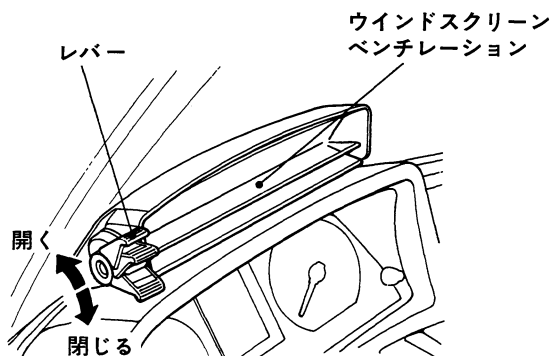
- 走行中にウインドスクリーン ベンチレーション、ベンチレーションルーバ及び、フットウォーマ ベンチレーションの調整は行わないでください。

なお、ウォッシュスイッチの作動を必要とする状況では、走行前にウインドスクリーン ベンチレーションを閉じてください。

ウインドスクリーン ベンチレーション

ウインドスクリーン ベンチレーションはレバーの操作により3段階に開閉します。

ウインドスクリーン ベンチレーションを開けると走行中、外気が出ます。



ベンチレーション ルーバ

《上段、中段のベンチレーション ルーバ》

ノブ部を動かすと、ルーバが開閉します。ルーバを開けると走行中、外気が出ます。

《下段のベンチレーション ルーバ》

ノブ部を動かすと、ルーバが開閉します。ルーバを開けると走行中、外気または温風が出ます。

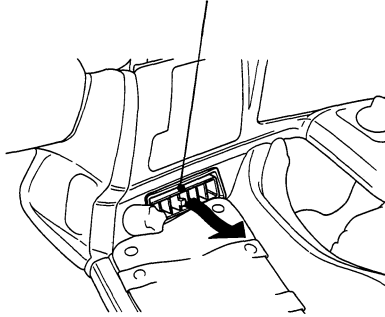
外気：

レバーを上げます。外気が出ます。

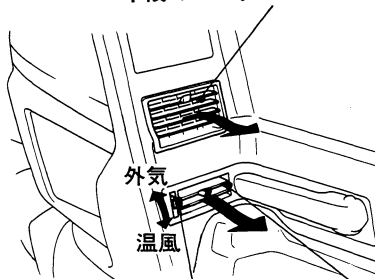
温風：

レバーを下げます。エンジンが十分に暖まった状態で外気より温かな風が出ます。

上段のベンチレーション ルーバ



中段のベンチレーション ルーバ

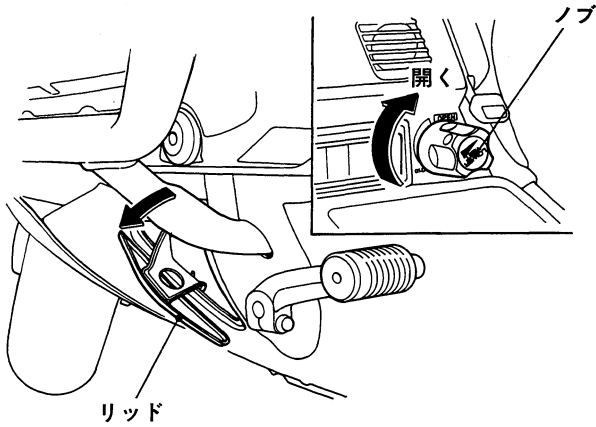


下段のベンチレーション ルーバ

レバー

フットウォーマ ベンチレーション

右フェアリングポケット近くのノブを回すと、左右のリッドが開閉します。エンジンが十分に暖まった状態でリッドを開けると、走行中外気より温かな風が出ます。



フェアリングポケット

左フェアリングポケット

左フェアリングポケットは、ホックを外しカバーを取外して使用します。

右フェアリングポケット

《開けかた》

1. メインスイッチのキーを差し込み、右に回します。
2. キーを持ちカバーを上方に取外します。

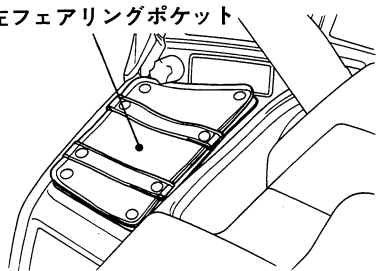
《閉じかた》

1. カバー前側の爪をフェアリングに合せます。
2. カバーの後側を押し下げ、セットします。
3. キーを抜き取ります。

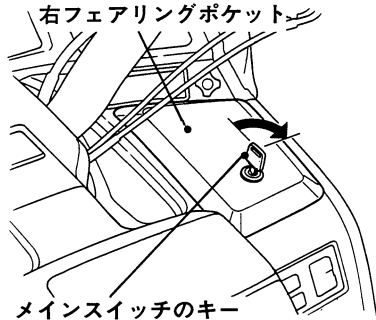
注意

- フェアリングポケット内への荷物の搭載は、左右ともに2kg以下です。また左右均等に搭載してください。
- 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- 走行中にフェアリングポケットの開閉は行わないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

左フェアリングポケット



右フェアリングポケット



トランクサイドポケット

《開けかた》

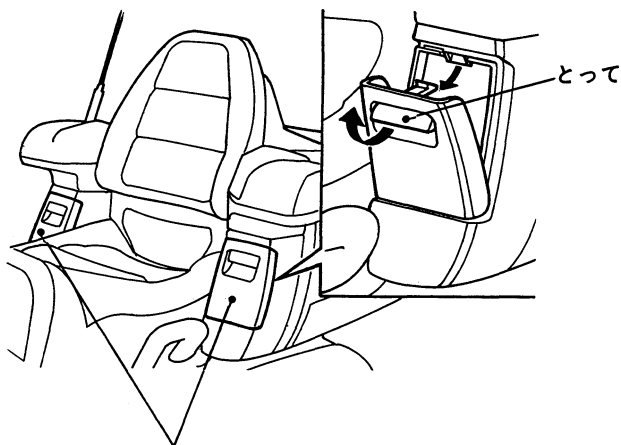
カバーのとつてを前に引いて開けます。

《閉じかた》

カバーを後方に押しつけて閉じます。

注意

- トランクサイドポケット内への搭載は、0.5kg以下です。
- 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- 鋭利なものや堅いものは入れないでください。カバーが開かなくなる場合があります。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。



トランクサイドポケット

トランク

《開けかた》

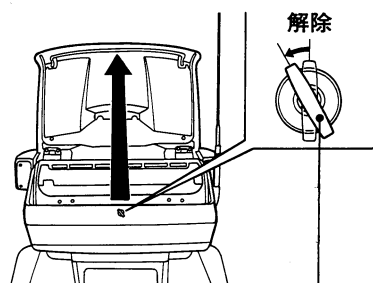
1. メインスイッチのキーを差し込み、左に回してロックを解除します。
または、右に回した後、中央のラッチレバーを引き下げてロックを解除します。
2. トランクのカバーを開けます。

《閉じかた》

1. カバーを閉じロックします。
2. キーを戻し抜き取ります。

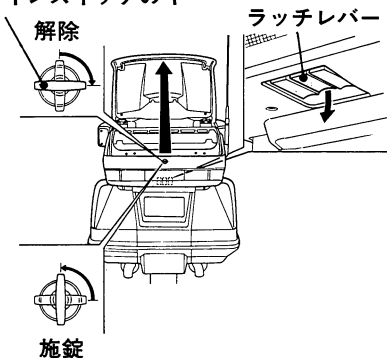
注意

- トランク内への荷物の搭載は、9 kg以下です。
- トランクを閉めた後、完全にロックされたか確かめてください。
- 貴重品やこわれやすいものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。



メインスイッチのキー

メインスイッチのキー



サドルバッグ

《開けかた》

1. メインスイッチのキーを差し込み、右に回します。
2. 左側(右側)のラッチレバーを引き下げてロックを解除します。
3. 左側(右側)サドルバッグのカバーを開けます。

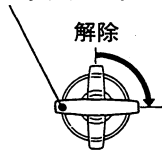
《閉じかた》

1. カバーを閉じロックします。
2. キーを戻し抜き取ります。

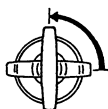
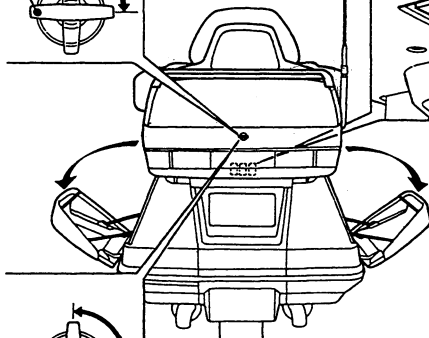
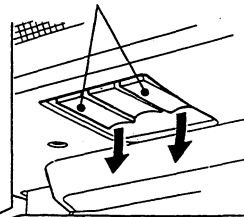
注意

- サドルバッグ内への荷物の搭載は、左右ともに 9 kg以下です。また、左右均等に搭載してください。
- サドルバッグを閉めた後、完全にロックされたか確かめてください。
- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

メインスイッチのキー

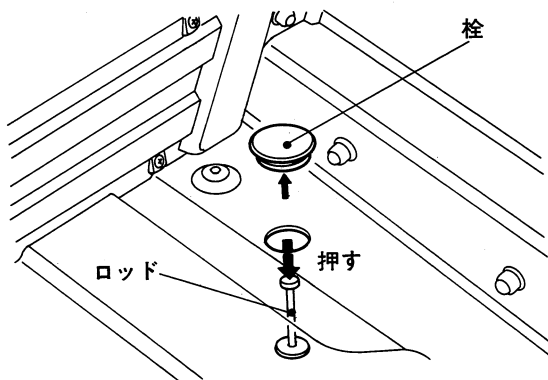


ラッチレバー



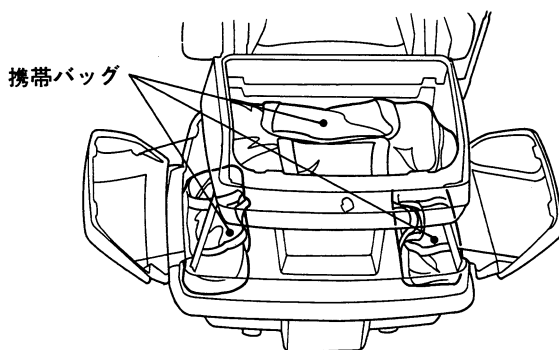
《ラッチレバーで開かないときの開けかた》

1. トランクを開けます。
トランクの開けかたは、34ページを参照してください。
2. 右側(左側)の栓を取り外します。
3. ロッドを押し下げてロックを解除します。
4. 右側(左側)のサドルバッグのカバーを開けます。



携帯バッグ

トランク、サドルバッグには、携帯バッグが装備されています。携帯バッグを利用すると、駐車時に荷物を持ち運ぶのに便利です。

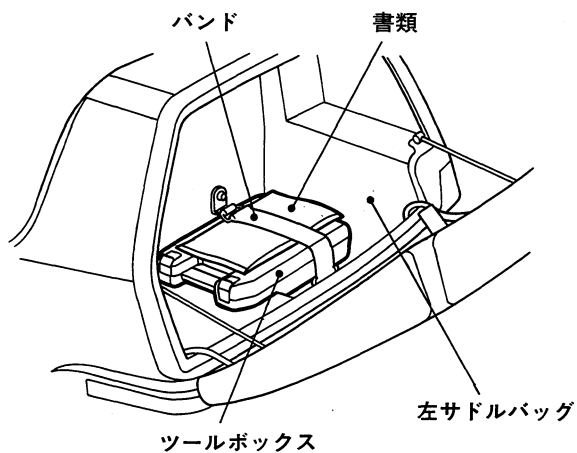


ツールボックス

ツールボックスは、左サドルバッグの底部に確実に格納してください。

書類

取扱説明書、整備手帳などは、ツールボックスとともに左サドルバッグの中に保管してください。



シートカバー

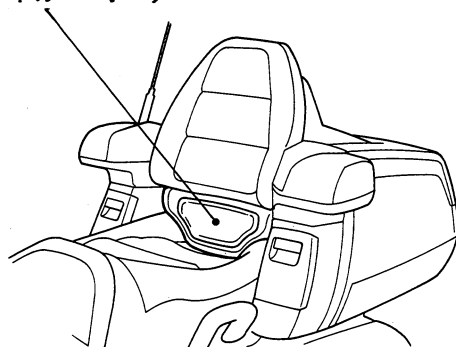
この車には停車中に使用できる、シートカバーが装備されています。

1. シートカバーポーチを前に引き出し、ファスナを開けシートカバーを取出します。
2. シートにシートカバーをかぶせます。

注意

- シートカバーが損傷しますので、シートカバーをかぶせたまま乗車しないでください。
- シートカバーは埃よけ用ですので、防水効果はありません。
- シートカバーはトランクを開け、ひも先端のフックを外し、取外して洗うことができます。

シートカバーポーチ



リヤクッション

この車には運転者や荷物の重さ、路面の状態に応じて空気圧の調整ができるリヤクッションが装備されています。

- 空気圧が低いときは、1人乗車、路面状態が良い場合に適し、柔らかな乗り心地が得られます。
- 空気圧が高いときは、2人乗車、路面状態が悪い場合に適し、堅めの乗り心地が得られます。

注意

- 走行中の空気圧点検及び減圧は行わないでください。
- 空気圧を調整するときはメインスタンドを使用してください。
サイドスタンドでは、正確な値が得られません。

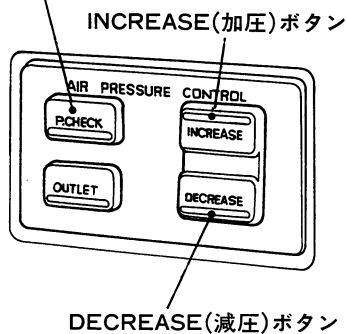
リヤクッションの空気圧点検と調整

1. 平坦地で足場のしっかりした所にメインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを“ON”，“ACC”，または“P”の位置にします。
3. P.CHECKボタンを押すと空気圧がディスプレイに表示されます。
4. P.CHECKボタンを押しながら INCREASE（加圧）ボタンまたは DECREASE（減圧）ボタンを押すと加圧または減圧され、空気圧が表示されます。

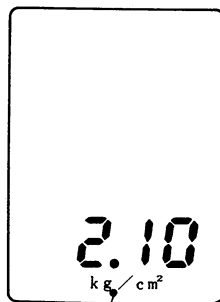
調整範囲：0～4 kg/cm²

標準空気圧：1人乗車時 0 kg/cm²
2人乗車時 4 kg/cm²

P.CHECKボタン



ディスプレイ



空気圧

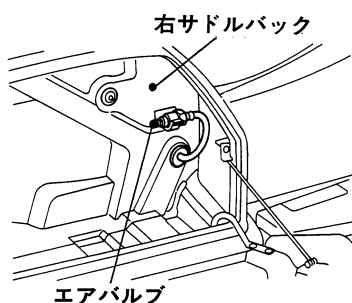
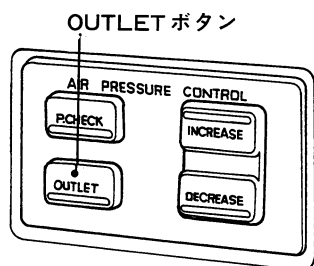
エアポンプ

リヤクッションの空気圧調整機構は、エアポンプとして使用できます。

1. メインスイッチを“P”の位置にします。
2. OUTLETボタンを押すとエアバルブより圧縮空気が供給されます。
ディスプレイに空気圧は表示されません。

注意

- エアポンプは5分以上連続して使用しないでください。また、長時間の断続使用もさけてください。エアポンプが損傷する場合があります。
- オプション部品のエアサプライホースをエアバルブにつなぐと、タイヤに空気を入れることができます。エアサプライホースのお求めは、お買いあげのホンダ販売店へお申しつけください。
- エアポンプを使用するとき以外は、必ずエアサプライホースをエアバルブから外してください。エアサプライホースをつないだ状態では、リヤクッションの加圧調整ができません。



前照灯(ヘッドライト)の光軸調整

この車には前照灯(ヘッドライト)の光軸を手で上下方向に調整できる機構が装備されています。乗車条件により前照灯調整ノブ(ヘッドライトアジャストノブ)で調整してください。

《調整》

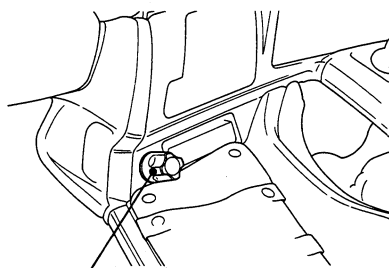
ノブを右(DOWN)方向に止まるまで回し、止まった位置を起点とします。

1人乗車(リヤクッションの空気圧:0kg/cm²):起点より左(UP)方向に
8回転回します。

2人乗車(リヤクッションの空気圧:4kg/cm²):起点より左(UP)方向に
10回転回します。

注意

- 走行中に光軸の調整は行わないでください。

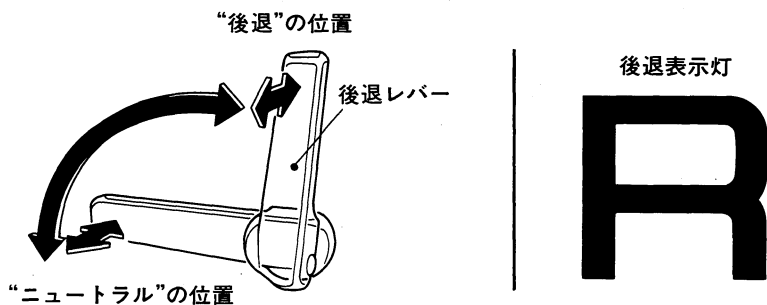


前照灯調整ノブ(ヘッドライトアジャストノブ)

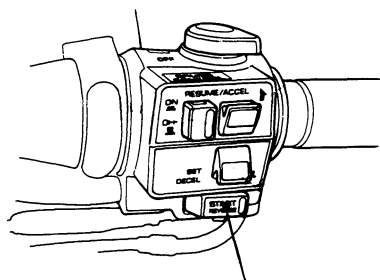
後退装置

この車には、平坦地において車を微速で後退させる装置が付いています。

1. エンジnstoppスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルに入れます。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. 車にまたがりエンジンをかけます。
エンジンのかけかたは、64ページを参照してください。
5. サイドスタンドを格納します。
6. 後退レバーを図のように“後退”の位置にし、後退表示灯が点灯していることを確認します。



7. スタータ/リバース(後退)ボタンを押すと車が後退します。
8. スタータ/リバース(後退)ボタンを放すと車は停止します。



9. 停止後、後退レバーを戻し、後退表示灯が消えニュートラル表示灯が点灯したことを確認します。

注意

- 後退するときは、周囲に人や障害物がない場所で行ってください。
- 急な坂道やでこぼこのある路面では行わないでください。
後退装置は一定速度で車を動かすよう設計されています。急な坂道や障害物のために後退しない場合、後退装置が解除され、後退表示灯が消えます。このとき車を移動させる場合は後退レバーをニュートラルの位置に戻してください。
- 後退するときは同乗者を乗せないでください。
- バッテリーの放電を避けるために、スタータ/リバース（後退）ボタンは1分以上押さないでください。
- 車が動いているとき、後退レバーを動かさないでください。後退ギアが損傷する場合があります。
- エンジン停止中に後退レバーが後退の位置にあるとスタータモータは回りません。

自動定速走行装置

高速道路または、発進、停止の繰り返えしの少ない自動車道路などを一定速度で運転できる装置です。

4 速，ODギヤにおいて車速が約50km/h～約80km/hの範囲で設定できます。

注意

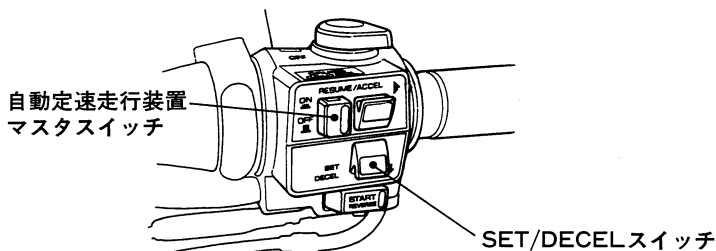
- 次のような道路では安全のため，自動定速走行装置は使用しないでください。
 - ・ 混んでいて車間距離が十分にとれない道路。
 - ・ 急なカーブ，急な下り坂のある道路。
 - ・ 悪天候下の道路。
- 登坂時および降坂時は条件によっては一定車速を保てない場合があります。

希望車速をセットし、定速走行をしたいときの操作

1. 自動定速走行装置マスタスイッチを押してONにします。
ONのとき自動定速走行装置マスタスイッチ表示灯が点灯します。
(もう一度押すとOFFになります。)
2. スロットルグリップを加減して希望の車速になったらSET/DECELスイッチを押して離します。離したときの車速にセットされます。
自動定速走行装置セット表示灯は、SET/DECELスイッチを押したとき点灯し、自動定速走行中は点灯しつづけます。

注意

- 自動定速走行をしない場合は、安全のため自動定速走行マスタスイッチを解除しておいてください。



**CRUISE
SET**

自動定速走行装置セット表示灯

**CRUISE
ON**

自動定速走行装置マスタスイッチ表示灯

一時的に加速したいときの操作(自動定速走行中)

スロットルグリップを通常の加速時と同じように回すと車速が上がります。スロットルグリップをもとの位置に戻すと設定車速に戻り、定速走行ができます。

設定車速を上げたいときの操作(自動定速走行中)

《RESUME/ACCELスイッチによるとき》

RESUME/ACCELスイッチを押し続け、希望車速になったときスイッチを離します。離したときの車速にセットされます。

《スロットルグリップによるとき》

スロットルグリップで加速し希望車速になったときSET/DECCELスイッチを一度押して離します。離したときの車速にセットされます。

設定車速を少し上げたいときの操作(自動定速走行中)

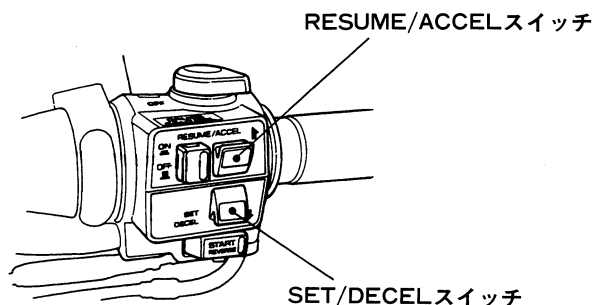
RESUME/ACCELスイッチを瞬間的に(約0.5秒間)押して離します。そのときの車速に対して約1.5km/h増速します。

設定車速を下げたいときの操作(自動定速走行中)

SET/DECCELスイッチを押し続け、希望車速になったときスイッチを離します。離したときの車速にセットされます。

設定車速を少し下げたいときの操作(自動定速走行中)

SET/DECCELスイッチを瞬間的に(約0.5秒間)押して離します。そのときの車速に対して約1.5km/h減速されます。



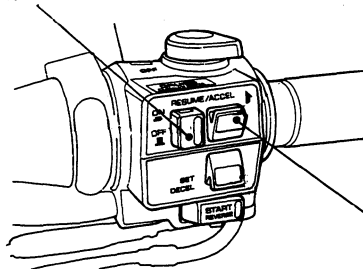
自動定速走行状態を解除したいときの操作

自動定速走行装置マスタスイッチを押してOFFにします。

自動定速走行状態の一時的な解除

- 次の場合、自動定速走行状態が一時的に解除されます。
 - ・ ブレーキレバーを握ったとき。
 - ・ ブレーキペダルを踏んだとき。
 - ・ クラッチレバーを握ったとき。
 - ・ スロットルグリップを強制的に戻したとき。
- 解除前の設定車速に戻したいときの操作。
 - ・ 車速が48km/h以上の場合、RESUME/ACCELスイッチを押します。
 - ・ 車速が48km/h以下の場合、48km/h以上まで加速後RESUME/ACCELスイッチを押します。

自動定速走行装置マスタスイッチ



RESUME/ACCELスイッチ

オーディオシステム

メインスイッチのキーが“ON”、“ACC”または“P”の位置でオーディオシステムが使用できます。

注意

- 走行中は常にハンドルを握り、次のスイッチ操作は行わないでください。
 - ・電源/音量ノブ
 - ・ラジオ/カセットデッキボタン
 - ・AM/FMボタン
 - ・SCANボタン
 - ・チャンネル/プログラムボタン
 - ・メモリボタン
 - ・イジェクトボタン
 - ・アンビエンスボタン
 - ・自動音量調整ノブ
 - ・トーン調整ノブ
 - ・フェイダ調整ノブ
- 音量は緊急車両のサイレン、他車のホーンなどの周囲の状況が常に確認できるレベルにしてください。

オーディオシステムは防水設計となっていますが、水気は極力避けてください。

注意

- この車を洗車する場合はオーディオシステムに高圧の水をかけないでください。

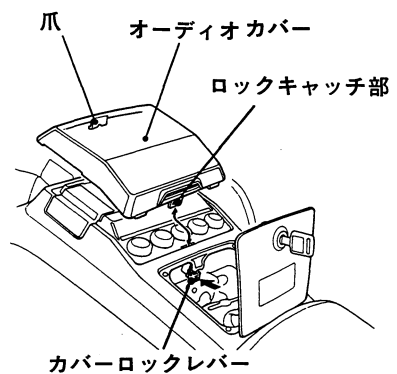
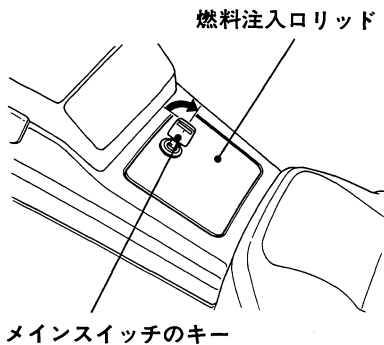
オーディオカバー

《取外し》

1. メインスイッチのキーを差し込み右に回して燃料注入口リッドを開けます。
2. カバーロックレバーを押し、ロックキャッチ部を上方に外します。
3. オーディオカバーを後方にずらし、上方に取外します。
4. 燃料注入口リッドを閉め、キーを抜き取ります。

《取付け》

1. オーディオカバーの爪とロックキャッチ部をオーディオ本体に合わせ、セットします。
2. オーディオカバーを軽く持ち上げてセットされたことを確認してください。



ラジオ

《電源/音量ノブ》

電源/音量ノブを右に回すと電源が入り、ディスプレイに“AM”または“FM”が表示されます。表示がないときはカセットデッキモードになっていますのでラジオ/カセットデッキボタンを押してラジオモードに切替えます。

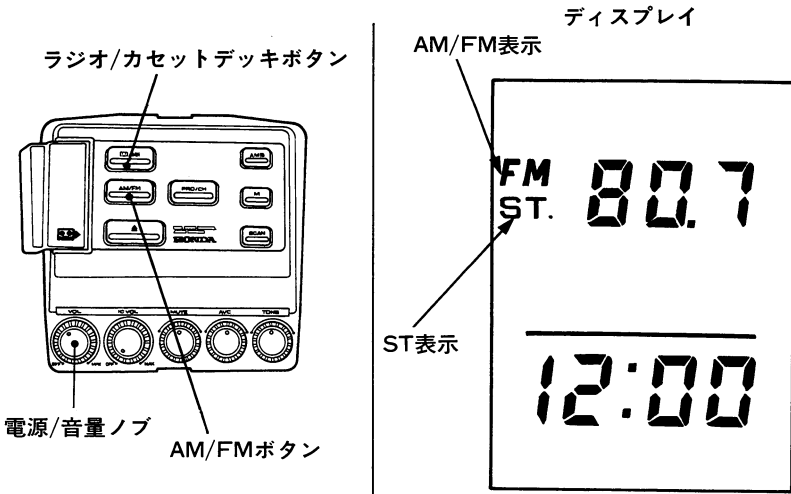
電源/音量ノブをさらに右に回すと音量が増加します。

《AM/FMボタン》

AM/FMボタンを押すとAMからFMに、またはFMからAMに切り、ディスプレイの“AM”、“FM”表示で確認できます。ディスプレイの“ST”はFMのステレオ放送を受信したときのみ表示されます。

注意

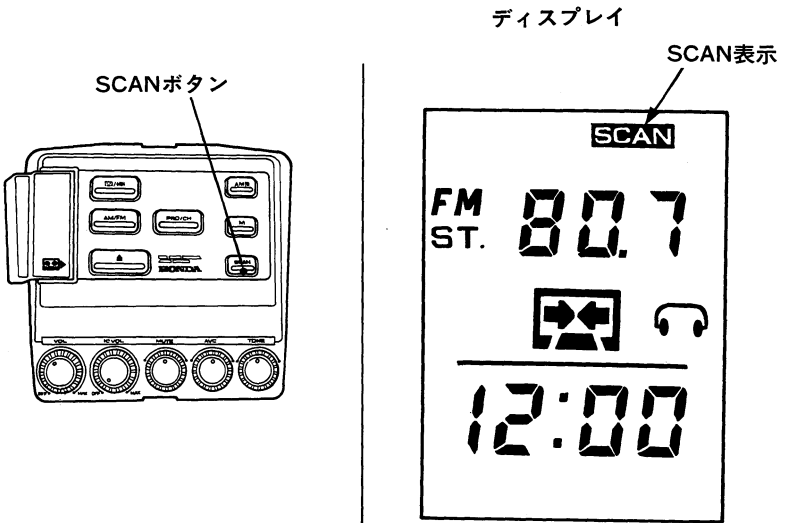
- FMのステレオ放送で受信が弱くなると、音質を維持するために“ST”が表示されていてもモノラルに近い音になります。
- ステレオ放送の受信はFMのみです。AMはモノラル受信となります。



《SCANボタン》

このラジオはSEEKモードとSCANモードの自動選局機能を備え、サーチレバーで操作できます。

SCANボタンを押すとSEEKモードからSCANモードに、またはSCANモードからSEEKモードに切替ります。SCANモードでディスプレイに“SCAN”が表示され、SEEKモードでは表示されません。



《サーチラバー》

サーチラバーを操作すると受信中の周波数が変り局を探すことができます。サーチラバーを上にも動かすと周波数は上がり、下にも動かすと下がります。

サーチラバーの操作はレバーを動かして約0.5秒間保持する方法（“サーチラバーを動かす”と記載）と瞬間的に動かす方法（“サーチラバーをチョン押しする”と記載）があります。区別し、操作してください。

手動選局：

サーチラバーをチョン押しすると周波数がAMで9 kHz, FMで0.1MHz変わります。

自動選局：

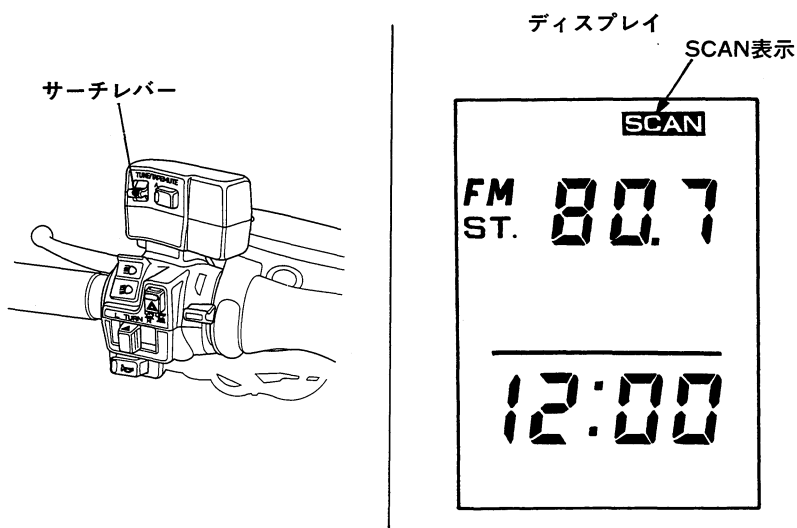
SCANボタンでSEEKモードかSCANモードを選択します。

●SEEKモード

サーチラバーを動かすと、次の局を検索し選局します。

●SCANモード

サーチラバーを動かすと、局を次々に検索し続け、各局に10秒間づつ停止します。選局は、局に停止中にサーチラバーをチョン押しして行います。SCANモード自動選局中はディスプレイの“SCAN”表示が点滅します。



《チャンネルボタン》

チャンネルボタンを押すと、あらかじめセットされた局が受信できます。

●記憶操作

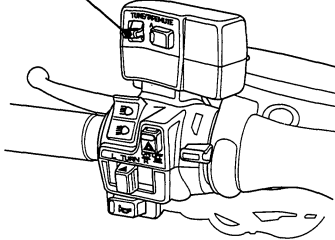
AM, FMともそれぞれ6局まで記憶することができます。

1. サーチレバーで希望する局を探します。
2. メモリボタンを押します。ディスプレイの“CH”表示が点滅し,記憶可能な状態を示します。
3. チャンネルボタンを押し, 希望するチャンネルを選びます。
4. “CH”表示が点滅している間にメモリボタンを押します。ディスプレイにあらたなチャンネルが表示され局が記憶されます。

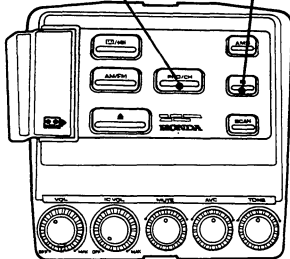
注意

- SCANモード自動選局の10秒間の停止中は記憶できません。
サーチレバーで選局後, 記憶してください。
- “CH”表示の点滅は7秒間で消え記憶できなくなります。
- あらたにチャンネルを設定すると古い記憶は自動的に消えます。

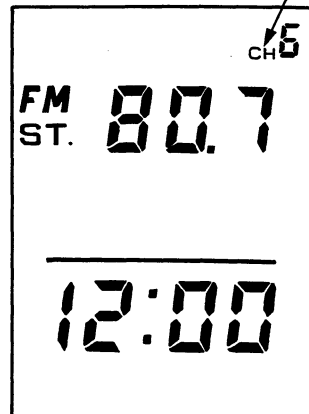
サーチレバー



チャンネルボタン メモリボタン



CH表示





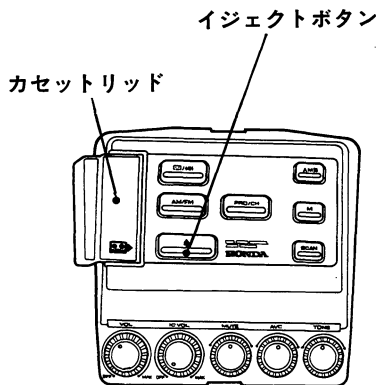
カセットデッキ

《テープのセット》

イジェクトボタンを押し、カセットリッドを開きます。リッドに示された方向にテープをセットし、リッドを閉めます。

注意

- C-120テープは非常に薄いため伸びたり、巻き付いたりして故障の原因となりますのでご使用は避けてください。
- ラベルのはがれたテープは故障の原因となりますので使用しないでください。
- 雨が降っている時は、リッドを開けないでください。
またデッキのリッドを開ける前に、外に付いた水分や汚れを拭き取ってください。
- テープは鉛筆などでたるみを取ってからセットしてください。
- 切れたテープやたるみの多いテープをセットすると、カセットデッキは数秒間テープの巻き戻しを行い、停止してディスプレイに“”が表示され点滅します。
このときは、イジェクトボタンを押して、テープを取出してください。



テープのセット方向



《テープの取出し》

イジェクトボタンを押し、テープを取出します。

注意

- テープがセットされてない状態で、カセットリッドを連続的に開閉すると、イジェクトボタンを押してもカセットリッドが開かない場合があります。

このときは、数秒後にイジェクトボタンを押してください。カセットリッドが開きます。

《電源/音量ノブ》

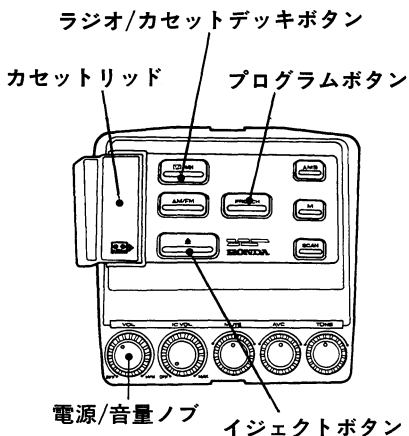
電源/音量ノブを右に回すと電源が入ります。

ディスプレイに“AM”または“FM”が表示された場合はラジオモードになっていますので、ラジオ/カセットデッキボタンを押してカセットデッキモードに切替えます。カセットデッキにテープがセットされるとディスプレイに“▶”または“◀”が表示され演奏面を示します。

電源/音量ノブをさらに右に回すと音量が増加します。

《プログラムボタン》

このカセットデッキはオートリバース機能を備えていますので、テープを裏返すことなく両面を連続して聞くことができます。途中で切替える場合はプログラムボタンを押します。



ディスプレイ表示



《サーチレバー》



このカセットデッキはサーチレバーを操作することにより、テープの早送り/巻き戻しと曲の頭出しができます。

サーチレバーの操作はレバーを動かして約0.5秒間保持する方法(“サーチレバーを動かす”と記載)と瞬間的に動かす方法(“サーチレバーをチョン押しする”と記載)があります。区別して、操作してください。

早送り/巻き戻し：

サーチレバーを上方に動かすとテープを早送りし、下方に動かすとテープを巻き戻します。



テープの早送り及び巻き戻しの解除はサーチレバーをチョン押しして行います。

テープを早送り及び巻き戻しを行っている間、ディスプレイの“”または“”表示が点滅します。

頭出し：

サーチレバーを上方にチョン押しすると次の曲の始めまで早送りします。

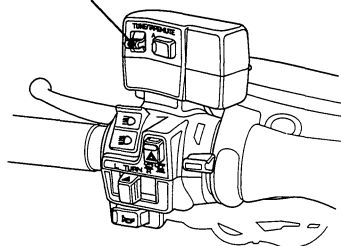
サーチレバーを下方にチョン押しすると曲の始めまで巻き戻します。

曲の頭出しを行っている間、ディスプレイに“TMS”が表示され、“”または“”表示が点滅します。

注意

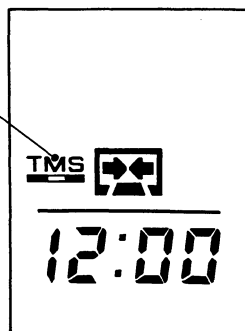
- 曲の間に無音部分の短かなもの、無音部分のノイズレベルが高いものは、頭出しが出来ません。また、曲の中に長い無音部分のあるものは、曲の間と判断することがあります。

サーチレバー



ディスプレイ

TMS表示



《プレーヤヘッドの清掃》

カセットデッキのプレーヤヘッドは、使用するたびにテープの汚れが付着し、ひどくなると音が歪みます。市販のクリーニングテープなどで定期的にヘッドを清掃してください。

音の歪み防止のため30時間使用ごとにヘッドを清掃してください。汚れを放置したまま使用しつづけると汚れが落ちなくなることがあります。

注意

- テープをケースより出したまま保管したり、磁気テープに直接手で触れたりしないでください。また粗悪なテープを使用しないでください。ヘッドの汚れが多くなり故障の原因となります。

ラジオ、カセットデッキ共通の機能

《ミュートスイッチ》

ラジオ/カセットテープを使用中にミュートスイッチを押すと瞬時に音量が減少し、ディスプレイに“MUTE”が表示されます。

スイッチをもう一度押すと音量はもとに戻ります。

《アンビエンスボタン》

アンビエンスとはステレオ信号のある音域を時間差をつけブレンドし、臨場感溢れる音質にするものです。

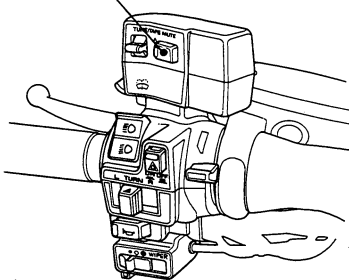
アンビエンスボタンを押すと機能し、ディスプレイに“AMB”が表示されます。

ボタンをもう一度押すと解除されます。

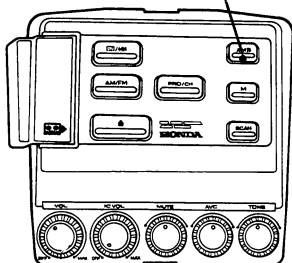
注意

- アンビエンスはFM、テープともに使用できますが、FMのステレオ信号が弱かったり、テープの音質が悪いと効果が出ない場合があります。

ミュートスイッチ

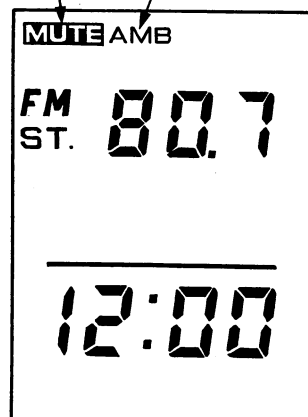


アンビエンスボタン



ディスプレイ

MUTE表示 AMB表示



《自動音量調整ノブ》

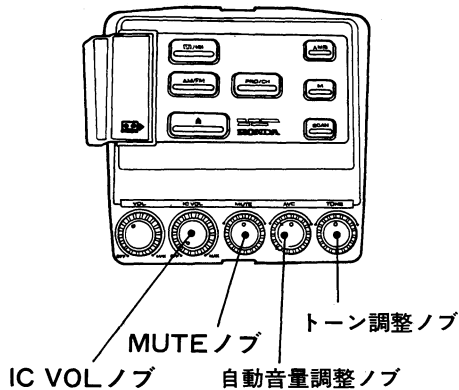
オーディオシステムには車速が増すと自動的に音量が増加する機能が付いています。

自動音量調整ノブを右に回すと増加レベルの上限が上ります。
中央の位置が標準です。

《トーン調整ノブ》

トーン調整ノブを右に回すと高音が強調され、左に回すと高音が弱まり低音が強調されます。

中央の位置が標準です。



注意

- IC VOL ノブとMUTE ノブは操作しても機能しません。IC VOL ノブはOFFにしておいてください。

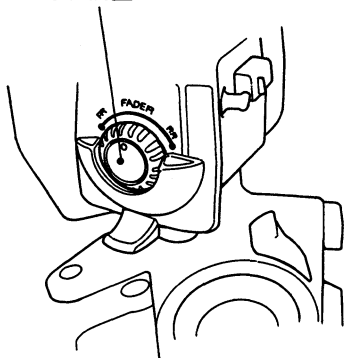
《フェイダ調整ノブ》

スピーカ音量の前後配分が調整できます。

フェイダ調整ノブをFR側に回すと前部スピーカの音が大きくなります。

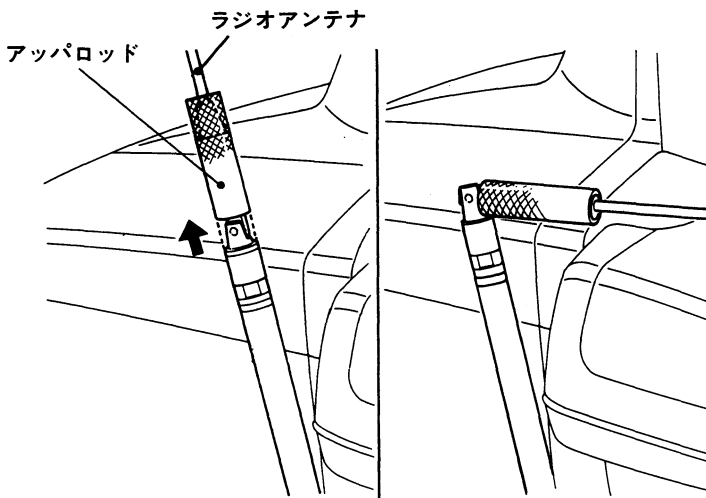
フェイダ調整ノブをRR側に回すと後部スピーカの音が大きくなります。

フェイダ調整ノブ



ラジオアンテナ

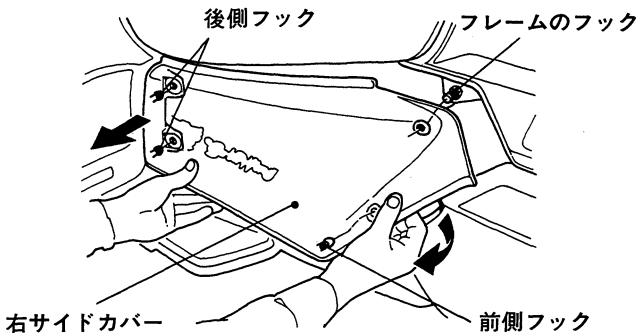
ラジオアンテナの折たたみは、アップロッドを回しながら引き上げて行きます。



サイドカバー

下図は右サイドカバーを示しています。左サイドカバーも同じ要領で行ってください。

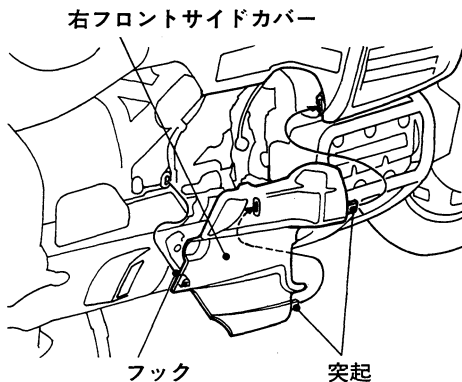
1. 右サイドカバー前側を手前に引いて前側のフックを外し同時にフレームのフックより外します。
2. 後側を手前に引いて後側のフックを外し、取外します。



フロントサイドカバー

下図は右フロントサイドカバーを示しています。左サイドカバーも同じ要領で行ってください。

1. 右サイドカバーを上記の要領で取外します。
2. 右フロントサイドカバー後側を手前に引いてフックを外します。
3. 右フロントサイドカバーを後方に動かし、突起を外して取外します。



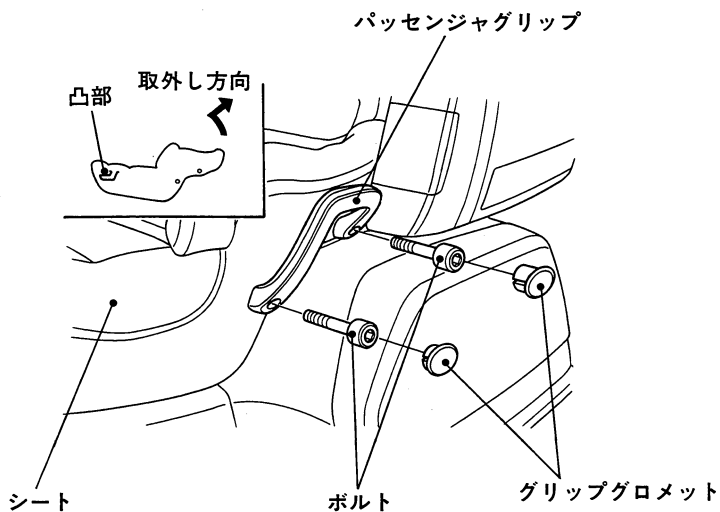
シート

取外し

1. 左右のパッセンジャグリップを取外します。
 - ① グリップグロメットを外します。
 - ② ボルトを外し、パッセンジャグリップを外します。
2. シート後部を持ち上げた後、後方にシートを取外します。

取付け

1. シートの凸部をボディカバーの下側に差し込みます。
2. パッセンジャグリップを取付けます。

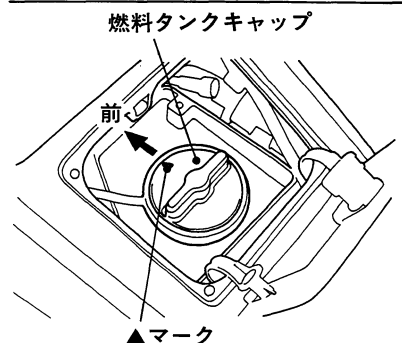
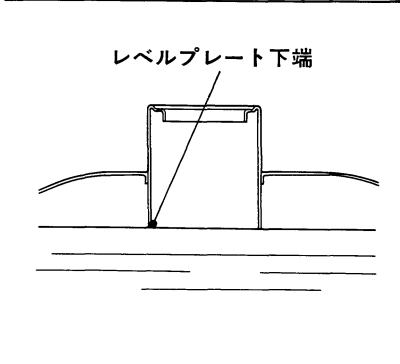
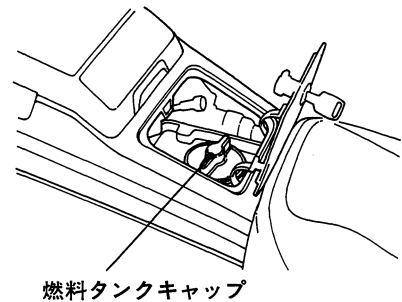
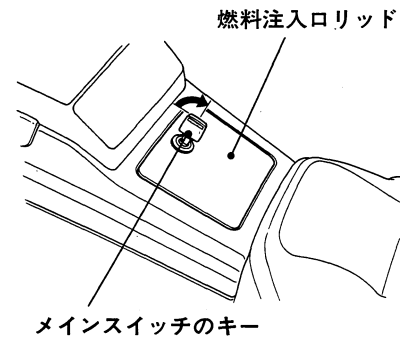


ガソリンの補給

1. メインスイッチのキーを差し込み右に回して燃料注入口リッドを開けます。
2. 燃料タンクキャップを左に回して取外します。
3. ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。
(無鉛ガソリン)
4. 燃料タンクキャップをセットし、▲マークが前または後の位置になるまで右に回します。
5. 燃料注入口リッドを閉め、キーを抜き取ります。

注意

- 補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。
- ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。
- 燃料タンクキャップは、確実にしめてください。



正しい運転操作

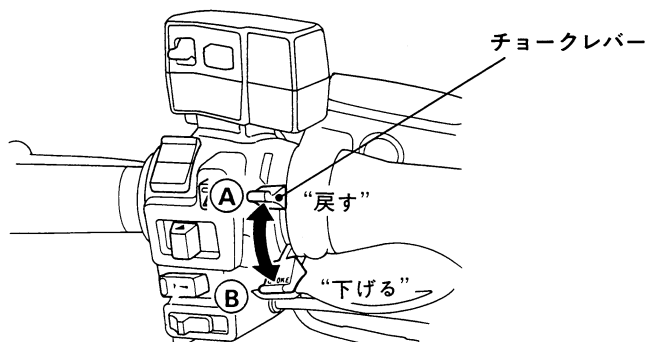
エンジンのかけかた

エンジンが冷えているとき

1. エンジンストップスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. チョークレバーをいっぱいに下げます。
5. スロットルグリップを閉じ、スタータ/リバース(後退)ボタンを押します。
6. エンジンがかかったら、チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転し、チョークレバーを完全に戻します。
7. サイドスタンドを確実に格納してからスタートしてください。

※この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。

- エンジンがかからないときは、120ページ記載の要領で確認してください。



エンジンが暖まっているとき

1. エンジンストップスイッチが“RUN”になっていることを確認します。
2. メインスイッチを“ON”にします。
3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
4. スロットルグリップを閉じ、スタータ/リバーズ(後退)ボタンを押します。(1～2回でエンジンがかからないときは、5.を行います。)
5. スロットルグリップを閉じてエンジンがかからないときは1/8から1/4ほど開き、スタータ/リバーズ(後退)ボタンを押します。
6. サイドスタンドを確実に格納してからスタートしてください。

※この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。

- エンジンがかからないときは、120ページ記載の要領で確認してください。

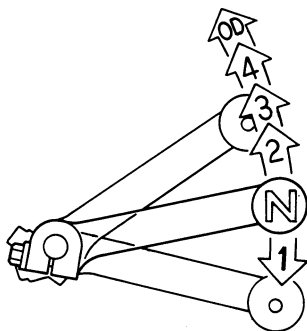
注意

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。
エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。
- スタータ/リバーズ(後退)ボタンを押して5秒以内でエンジンがかからないときは、10秒くらい休んでからまた押してください。
これはバッテリー電圧を回復させるためです。
- チョークレバーを下げたままでの長時間の暖機運転は、エンジンに悪影響を与えます。
- 無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。また、エキゾーストパイプが変色するおそれがあります。

チェンジのしかた

チェンジは、下記の図のような5段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- 軽くつま先で行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



走りかた

- 走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- サイドスタンドの動きがスムーズでないときは、サイドスタンド取付部の給油脂状態を確認してください。(93ページ参照)
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。下記の表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

	速度範囲
1 速	0～50km/h
2 速	20～80km/h
3 速	30～110km/h
4 速	40～150km/h
OD	50km/h以上

注意

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

最初の1,000km走行するまでは、エンジン回転を4,000回転以下で慣らし走行してください。慣らし運転を行うと、車の寿命をのばします。

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がりすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。下記の表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
OD→4 速	130km/h以下
4 速→3 速	95km/h以下
3 速→2 速	65km/h以下
2 速→1 速	35km/h以下

ブレーキの使いかた

この車はブレーキレバーで前輪右側を制動し、ブレーキペダルで前輪左側と後輪を制動します。

- ブレーキは、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、ブレーキレバーとブレーキペダルを同時に使う必要があります。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

注意

- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。

- 水たまりを走行した後や雨中走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなることがあります。

水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効き具合が悪い時は、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンプレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンプレーキがききます。さらにエンジンプレーキを必要とするときは4速、3速……とシフトダウンを行ってください。

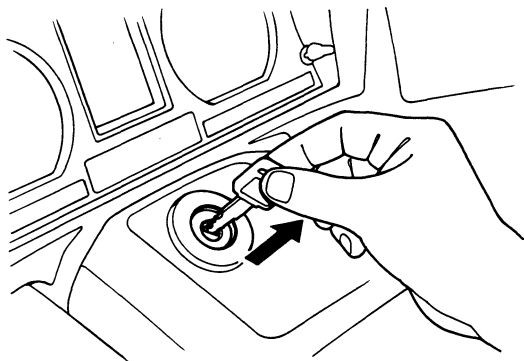
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンプレーキを併用してください。

注意

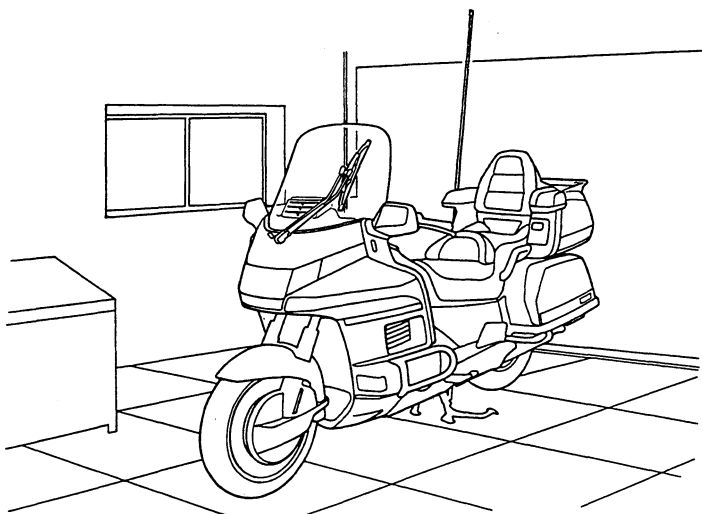
- 急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。67ページ《シフトダウンのしかた》の表にしたがって行ってください。

点検, 整備を安全に行うために

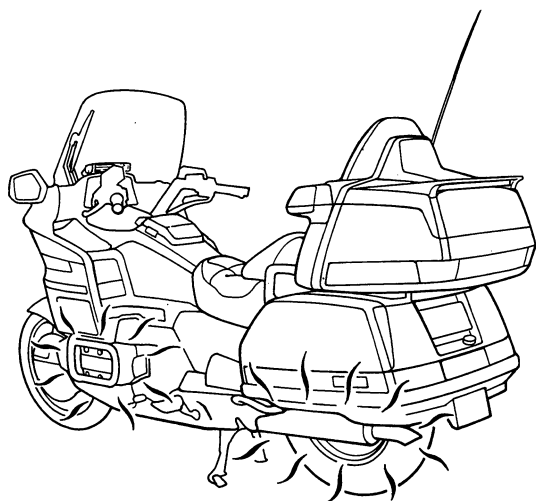
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。



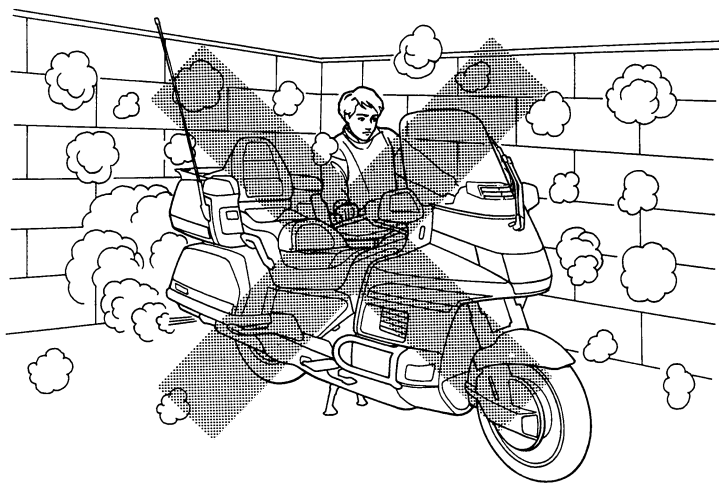
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



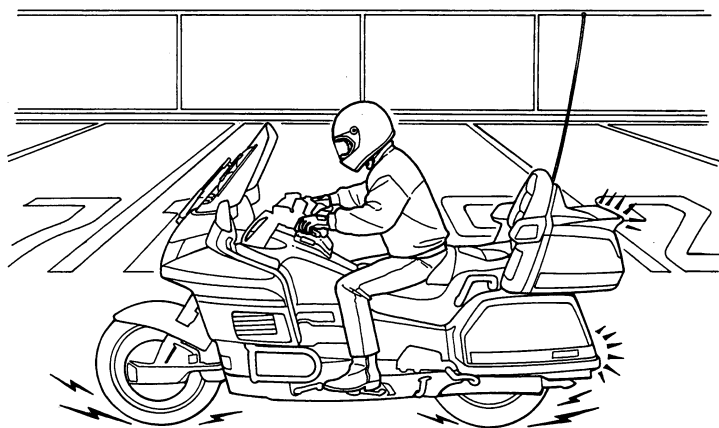
-
- エンジン停止直後の点検・整備は、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



純正部品

あなたのお車に最適なホンダ純正部品をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。

ホンダ販売店でお求めになれます。

純正部品には、つぎのマークがついています。



または、



法定点検

お車をご使用のかたには、法律(道路運送車両法)で、ご使用者の安全と車の事故を未然に防ぐため、1日1回の**運行前点検**と**6・12か月ごとの定期点検**を行うことが義務づけられています。

点検項目の詳細は、別冊「**整備手帳**」をご覧ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはホンダ販売店で必ず整備をしてください。

小型自動車(251cc以上)は2年ごとに国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、1日1回運転する前に実施するよう法令により義務づけられています。

- 前日の異状箇所
- ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合
- ブレーキリザーバタンクの液量
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状な摩耗、金属片、石などの異物
- ※ タイヤの溝の深さ
- ※ エンジンオイル量
- ※ 燃料の量
- ※ 冷却水量
- ※ 冷却装置の水漏れ
- 灯火装置、方向指示器
- 後写鏡(バックミラー)の写影
- ナンパプレートの汚れ、損傷
- 反射器の汚れ、損傷

※印は、高速走行が可能な道路を、走行する予定がない場合には行わなくてもよい項目です。

注意事項

点検するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検では、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけたの点検はやめてください。

前日の異状箇所の点検

運行に支障がないかを点検します。

ブレーキの点検

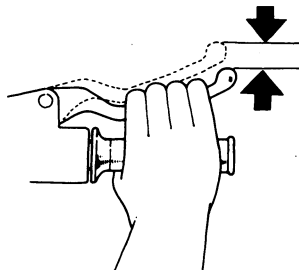
《ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合》

●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びが適当であるかを点検します。

ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

ブレーキレバーの遊び：10mm-20mm

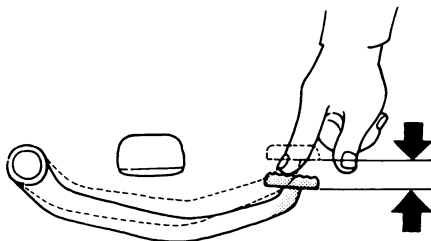


●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びが適当であるかを点検します。

ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

ブレーキペダルの遊び：20mm-30mm



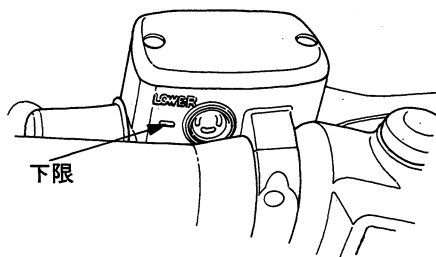
《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

[ブレーキレバー]

平坦地でメインスタンドを使い車体を垂直にして、ハンドルを左右に動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にして点検します。

液面が下限(LOWER)以上にあるかを点検してください。

ブレーキ液の補給は、105ページ参照。



[ブレーキペダル]

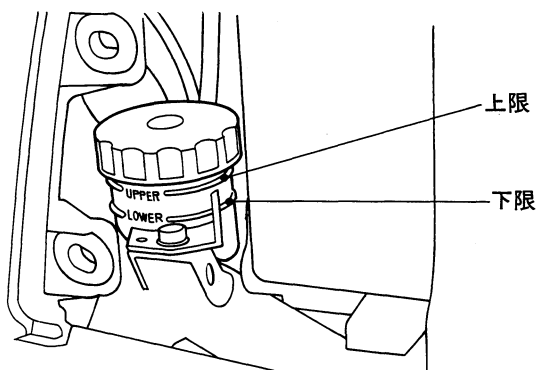
右サイドカバーを取外します。

サイドカバーの取外しは、61ページ参照。

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

ブレーキ液の補給は、105ページ参照。



万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

ブレーキ液漏れの点検は、84ページ参照。

タイヤの点検

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

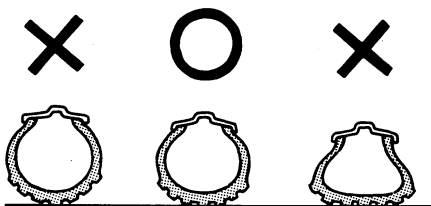
タイヤの接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

タイヤ空気圧

前輪：2.25kg/cm²… 1人・2人乗車

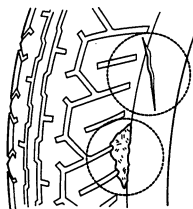
後輪：2.50kg/cm²… 1人乗車

2.80kg/cm²… 2人乗車



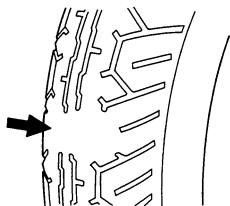
《亀裂・損傷》

タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



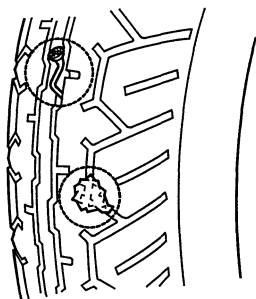
《異状な摩耗》

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。



《溝の深さ》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、使用限度ですのでただちにタイヤを交換してください。

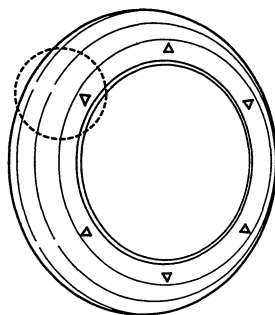
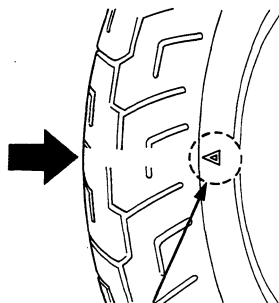
操縦安定性の確保など安全な走行のため、トレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪1.5mm

後輪2.0mm

注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



ウェアインジケータ
表示マーク
(タイヤより“TWI”で表示)

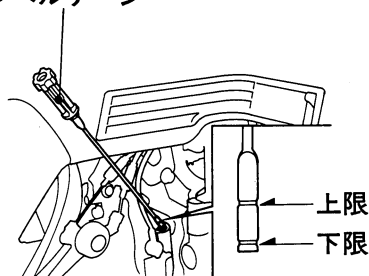
エンジンオイル量の点検

- 右フロントサイドカバーを取外します。
フロントサイドカバーの取外しは、61ページ参照。
- 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング回転させエンジン停止2～3分後に車体を垂直にし、エンジンオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
エンジンオイルの補給は、95ページ参照。

注意

- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

オイルレベルゲージ



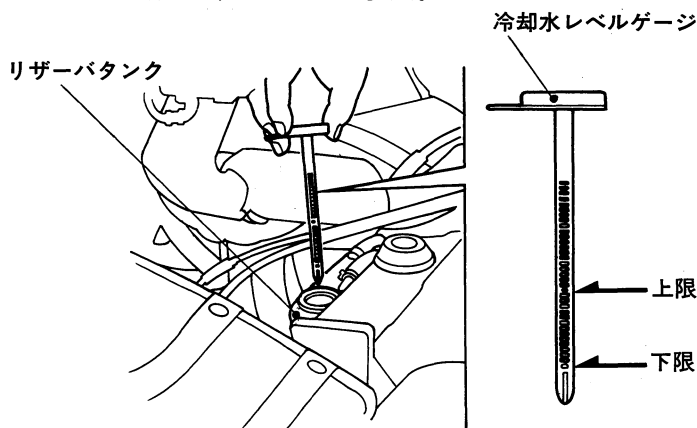
燃料の量の点検

ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。

冷却装置の点検

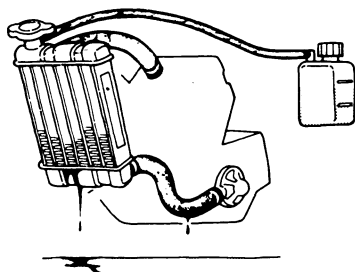
《冷却水量》

- 平坦地で車体を垂直にします。
- ハンドルを右に動かします。
- リザーバタンクの冷却水量が冷却水レベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- 冷却水レベルゲージはセットせず差し込んで点検してください。
- 冷却水量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
冷却水の補給は、107ページ参照。



《冷却装置の水漏れ》

- ラジエータ、ラジエータホースなどから水漏れがないかを点検します。また、車をとめておいた地面に、水が漏れたあとがないかを点検してください。



灯火装置, 方向指示器の点検

《点滅具合, 汚れ, 損傷》

前照灯(ヘッドライト), 尾灯(テールランプ)/制動灯(ストップランプ), 方向指示器のスイッチを作動させて, 点灯または点滅するかを点検します。

このとき, レンズに汚れや損傷がないかを点検します。

後写鏡(バックミラー)の写影の点検

シートに座って, 正しい運転姿勢をとったとき, 後方が後写鏡に正しく写るかを確認し, 点検します。

ナンバープレートの汚れ, 損傷の点検

ナンバープレートに汚れや損傷がないかを点検します。また, 確実に取付いているか手でさわって確認し, 点検します。

反射器の汚れ, 損傷の点検

反射器に汚れ, 損傷がないかを点検します。

6 か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、法令によって定められています。

自家用2輪自動車については、**6か月点検**と**12か月点検**の2種類があります。

- 6か月点検項目には、④と⑤の項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここでは④の項目とメーカー推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。
 - ④……点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。
 - ⑤……点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。
- 点検結果は、所定の記録用紙に記録する必要があります。ご自身でできない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。
- 点検結果の記録用紙は、別冊整備手帳に綴込まれています。なお、記録は1か年保存してください。
- メーカー推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

注意事項

点検するときは、安全に十分注意してください。

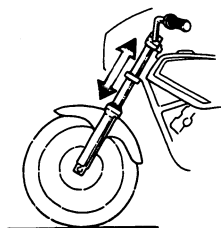
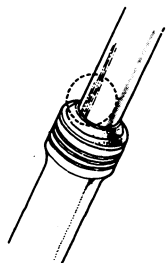
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけたの点検はやめてください。
- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

かじ取りホーク(フロントホーク)の点検

《損傷》

かじ取りホークに損傷がないか目視により点検します。

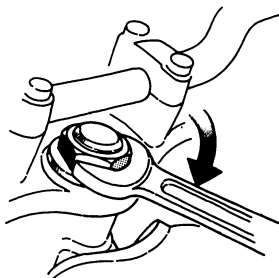
また、ハンドルを上下に動かし、かじ取りホークの曲りによる異音がないかを点検します。



《ホークスピンドル(ステアリングシステム)の取付け状態》

ホークスピンドルの締付けナットにゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。

工具で点検できない場合は、ハンドルまたはかじ取りホークを上下、前後方向に動かし、がたがないかを点検します。



ブレーキの点検

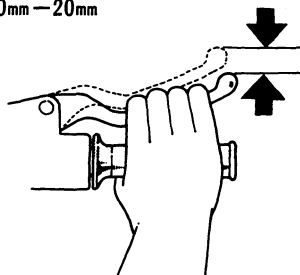
《ブレーキペダルの遊び》

●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

ブレーキレバーの遊び：10mm-20mm

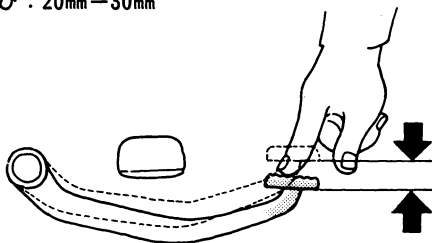


●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

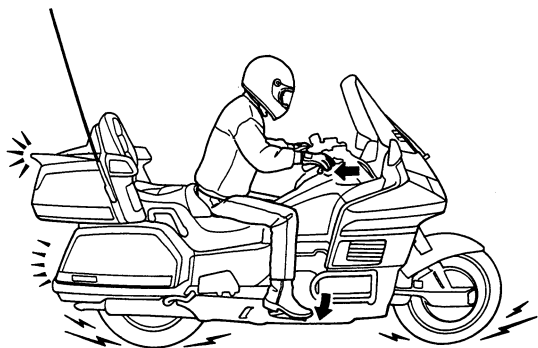
ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。

ブレーキペダルの遊び：20mm-30mm



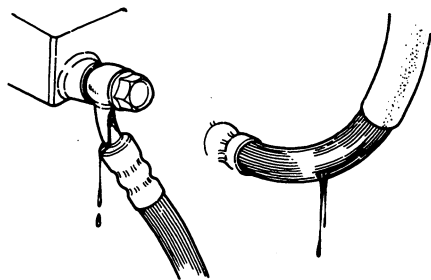
《ブレーキのきき具合》

乾燥した路面で、低速走行してブレーキレバー、ブレーキペダルを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。



《ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取付け状態》

液漏れ、損傷がないかを目視などにより点検し、接続部、クランプに緩みがないかをスパナなどの工具で点検します。また、ハンドルを左右に切ったときや、走行中の振動でホース、パイプの保護部以外が、他の部品と接触するおそれがないかを点検します。



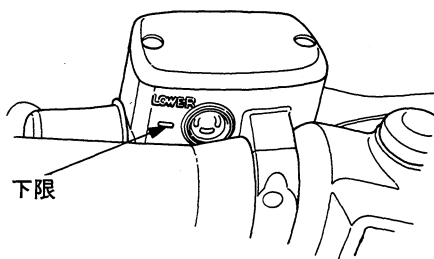
《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

[ブレーキレバー]

平坦地でメインスタンドを使い車体を垂直にして、ハンドルを左右に動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にして点検します。

液面が下限(LOWER)以上にあるかを点検してください。

ブレーキ液の補給は、105ページ参照。



[ブレーキペダル]

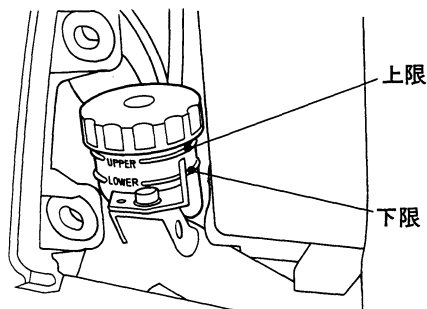
右サイドカバーを取外します。

サイドカバーの取外しは、61ページ参照。

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。

液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。

ブレーキ液の補給は、105ページ参照。



万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

ブレーキ液漏れの点検は、84ページ参照。

《ブレーキパッドの点検》(メーカー推奨項目)

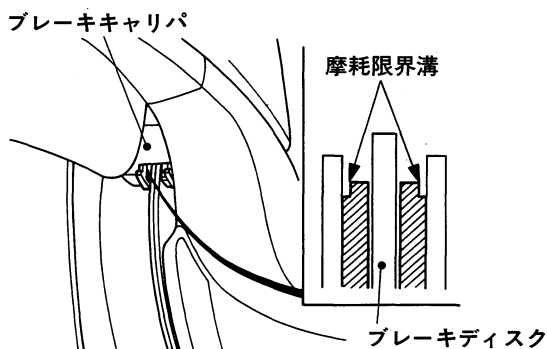
ブレーキを作動させ、ブレーキパッドの摩耗を点検します。

[前輪]

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

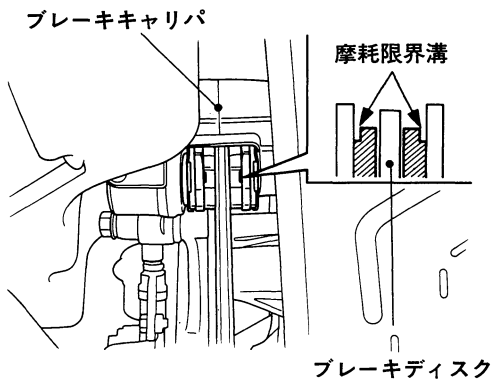
注意

- 左ブレーキキャリパはブレーキペダルで作動します。



[後輪]

ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。



タイヤの点検

《タイヤの空気圧》

タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。

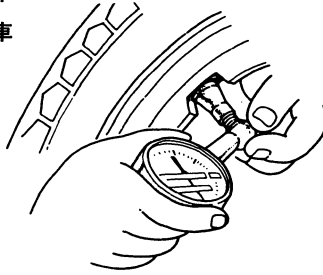
空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。

タイヤ空気圧

前輪：2.25kg/cm²…1人・2人乗車

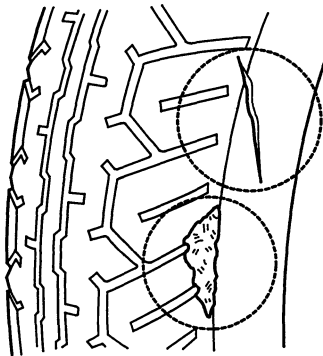
後輪：2.50kg/cm²…1人乗車

2.80kg/cm²…2人乗車



《亀裂と損傷》

タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。



《溝の深さと異状な摩耗》

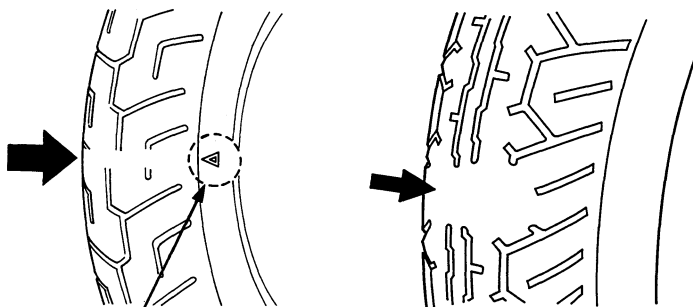
- 溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。

ウェアインジケータがあらわれたときは、使用限度ですのでただちにタイヤを交換してください。

操縦安定性の確保など安全な走行のため、トレッド中央部の溝の深さが次の数値になったときは交換してください。

前輪1.5mm 後輪2.0mm

- タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



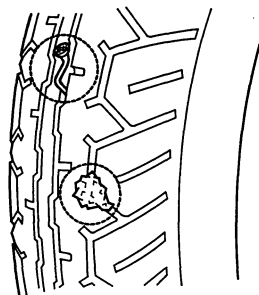
ウェアインジケータ表示マーク
(タイヤにより“TWI”で表示)

《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

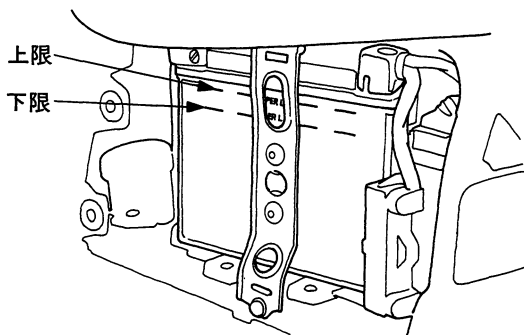
注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



バッテリー液量の点検

- 右サイドカバーを取外し、平坦地で車体を垂直にします。
サイドカバーの取外しは、61ページ参照。
- バッテリー各槽の液面が上限と下限の範囲にあるかを点検します。液面が下限に近かったら、蒸留水を補給してください。
バッテリー液の補給は、97ページ参照。

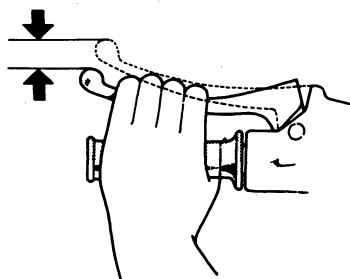


クラッチの点検

《レバーの遊び》

抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び：10mm-20mm



《クラッチの作用》

- アイドリング状態で、クラッチレバーをいっぱい引いたとき異音がないか、異常に重くないかを点検します。
- クラッチレバーを徐々に離して発進したとき滑りがなく、接続が滑らかであることを点検します。

エアクリーナエレメントの点検

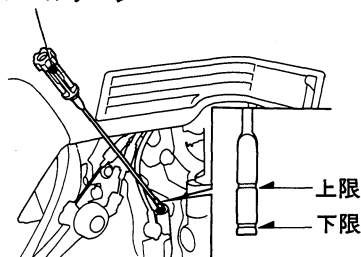
- この車には、ろ紙にオイルを含ませたビスカス式のエアクリーナエレメントが装備されており、点検は不要です。
- 20,000kmごとに交換してください。

エンジンオイルの点検

《オイルの量》

- 右フロントサイドカバーを外します。
フロントサイドカバーの取外しは、61ページ参照。
- 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリング回転させエンジン停止2～3分後に車体を垂直にし、エンジンオイル量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- オイルレベルゲージをねじ込まず差し込んで点検してください。
- オイル量が下限に近かったら、上限まで補給してください。
エンジンオイルの補給は、95ページ参照。

オイルレベルゲージ

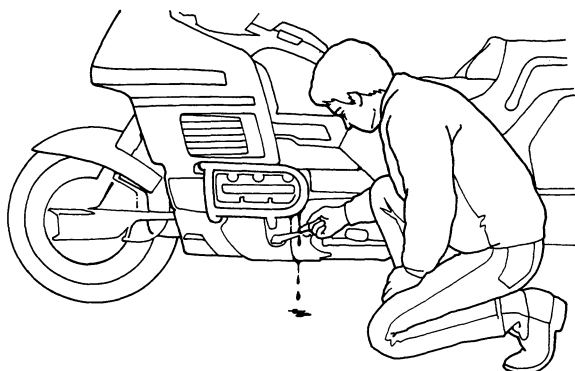


《汚れ》

平坦地で車体を垂直にして、オイルの汚れの点検を行います。

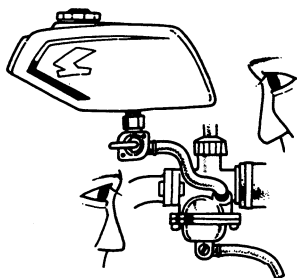
《油漏れ》

シリンダ、クランクケース、オイルパイプ、オイルホースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



燃料漏れの点検

燃料タンク、ホース、パイプ、キャブレターなどからガソリン漏れがないかを点検します。



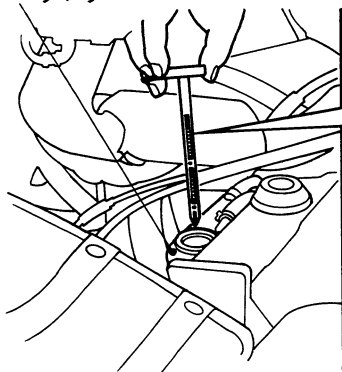
冷却装置の点検

《冷却水量》

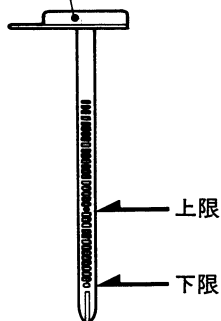
- 平坦地で車体を垂直にします。
- ハンドルを右に動かします。
- リザーバタンクの冷却水量が冷却水レベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。
- 冷却水レベルゲージはセットせず差し込んで点検してください。
- 冷却水量が下限に近かったら、上限まで補給してください。

冷却水の補給は、107ページ参照。

リザーバタンク



冷却水レベルゲージ

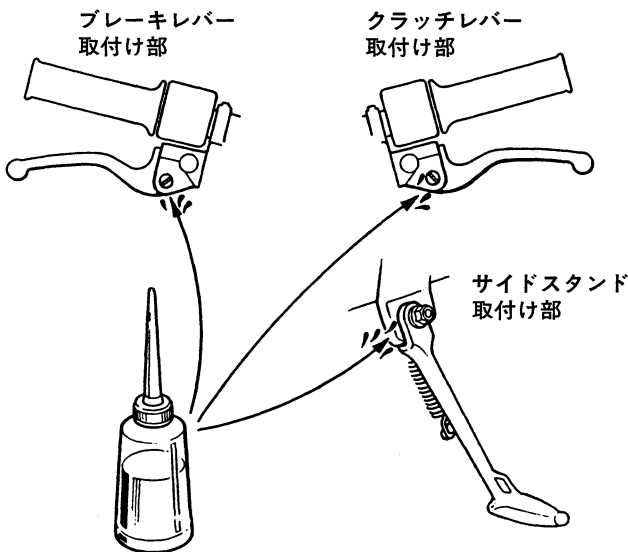


灯火装置, 方向指示器の作用の点検

- 前照灯(ヘッドライト), 制動灯(ストップランプ)および尾灯(テールランプ)のスイッチを作動させ点灯具合を点検します。
また前照灯の明るさや, 照射方向に異常がないかを壁面にあてるなどして点検します。
- 左右の方向指示器を作動させ, 毎分60~120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- 前照灯(ヘッドライト), 尾灯(テールランプ), 制動灯(ストップランプ), 方向指示器のレンズに変色, 損傷がないか, また, 取付けにゆるみがないかを点検します。

シャシ各部の給油脂状態

シャシ各部の給油状態が十分であるかを目視などにより点検します。



簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

注意事項

整備するときは、安全に十分注意してください。

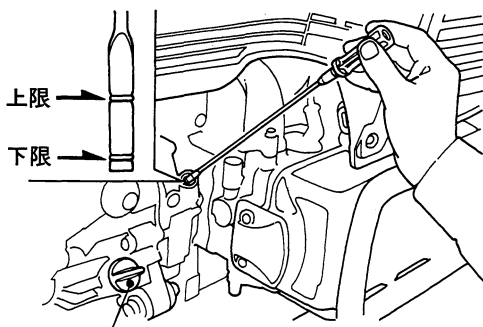
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- エンジン停止直後の整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

エンジンオイルの補給

1. 右フロントサイドカバーを取外します。
フロントサイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。
2. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリングで回転させます。
3. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージ、オイルフィラキャップを外します。
4. 車体を垂直にしてオイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、オイル注入口よりオイルを上限まで補給します。
5. オイルレベルゲージ、オイルフィラキャップを確実に取付けます。

注意

- 補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。



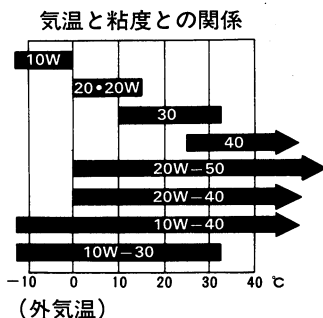
オイルフィラキャップ

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイルウルトラ-U(4サイクル二輪車用)”…(SAE10W-30),
“ホンダ純正オイルウルトラGP(4サイクル二輪車用)”…(SAE10W-40,
SAE20W-50) またはAPI SE, SF, SG 級のエンジンオイル

《交換時期》

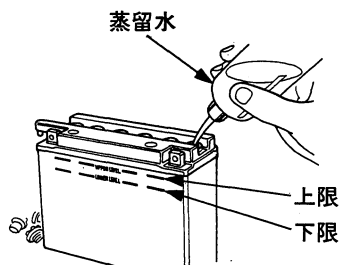
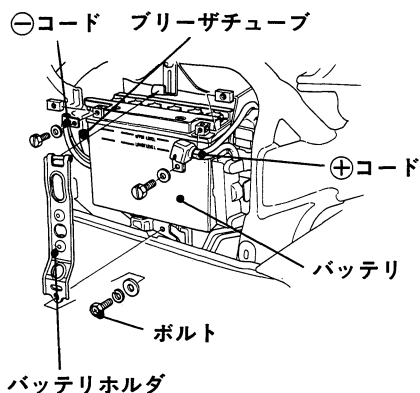
初回：1,000km, 以後：6,000kmごとです。



バッテリー液の補給

バッテリー液が不足している場合は、次の手順で蒸留水を補給します。

1. 右サイドカバーを取外します。
サイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。
2. ボルト、スプリングワッシャ、ワッシャを外し、バッテリーホルダを取外します。
3. プリーザチューブをバッテリーエルボから外します。
4. ⊖コードをバッテリーターミナルから外します。
5. ⊕コードをバッテリーターミナルから外します。
6. バッテリーを取出し、バッテリーキャップを外した後、上限まで蒸留水を補給します。
7. 補給後は、バッテリーキャップを確実に締め、取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。



注意

- ターミナルからバッテリーコードを取外す場合は、メインスイッチを“OFF”にし、必ず⊖側バッテリーコードから外してください。取付けの場合は、⊕側コードを先に取付け、次に⊖側コードを取付けてください。ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト/ナットを締付けてください。
- バッテリー液は、希硫酸で目や皮膚を侵しますので十分注意してください。万一付着したときはすぐ多量の水で、少なくとも5分間以上洗浄して専門医の診察を受けてください。
- 蒸留水を入れすぎると、こぼれて腐食の原因となります。
- バッテリー取付け後は、ブリーザチューブがバッテリーエルボにしっかりと結合されているか確認してください。ブリーザチューブがかんだりつまっていると、バッテリーの内圧が高くなりバッテリーケースが破損することがあります。車に貼ってあるラベルに従い確認してください。

バッテリーターミナル部の清掃

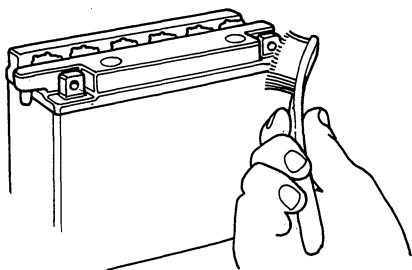
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、バッテリーを取外して清掃します。

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、バッテリーコードを外し、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーコードを取付け、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。

注意

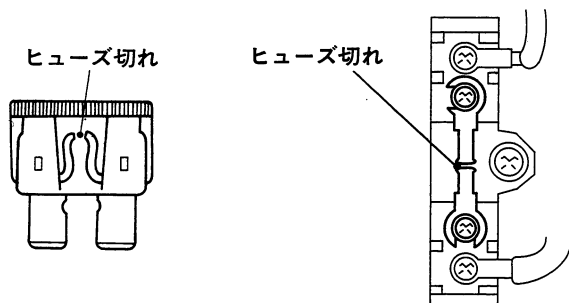
- バッテリー内に異物を混入させないため、清掃時は、バッテリーキャップを取外さないでください。



ヒューズの交換

メインスイッチを切り、ヒューズが切れているかを点検します。ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

●交換してもすぐにヒューズが切れる場合は異常です。

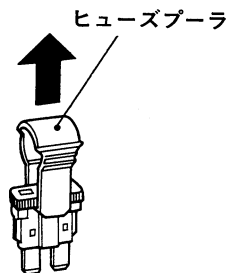
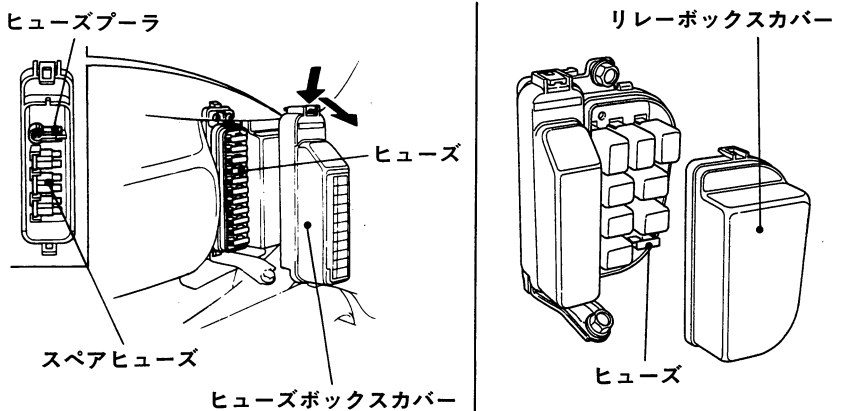


注意

- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線と過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。
- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。
- 洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。

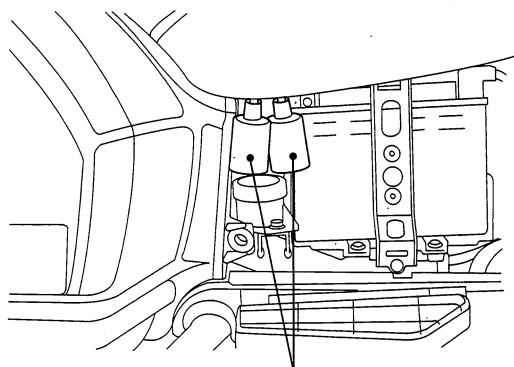
ヒューズボックス内のヒューズ

1. 左サイドカバーを取外します。
サイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。
2. ヒューズボックスカバーの上部を下に押し、手前に引いて、カバーを取外します。
リレーボックスカバーを取外します。
3. 故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズボックスカバー、リレーボックスカバーの表示に従い確認します。
4. ヒューズの取外しはヒューズボックス内のヒューズプーラで行ってください。

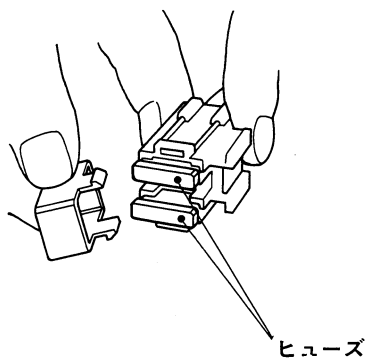


リバースヒューズ・ワイパヒューズ

1. 右サイドカバーを取外します。
サイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。
2. リバースヒューズとワイパヒューズのヒューズホルダは、バッテリーの側面付近にあります。ヒューズホルダを手前に引き出します。
3. 故障状況から、交換すべきヒューズをヒューズホルダの表示に従い確認します。



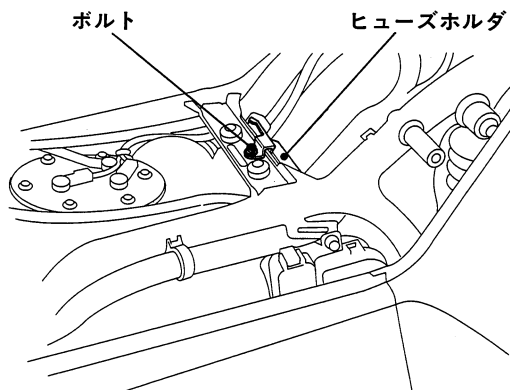
ヒューズホルダ



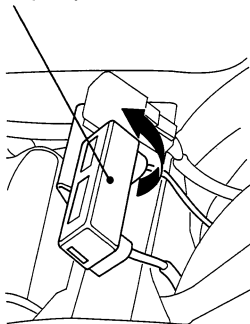
ヒューズ

リバースリミットヒューズ

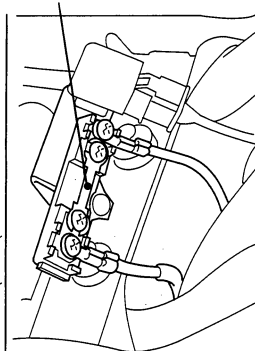
1. シートを取外します。
サイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。
2. ボルトを外し、ヒューズホルダを引き出します。
3. ヒューズホルダカバーを外し、ヒューズを点検します。



ヒューズホルダカバー



ヒューズ



メインヒューズ

- 右サイドカバーを取外します。

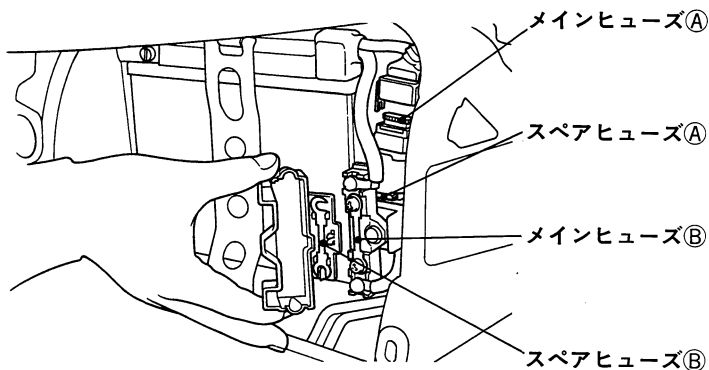
サイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。

《メインヒューズ(A)》

1. スタータマグネチックスイッチのカプラを外します。
2. メインヒューズ(A)を引き抜き、点検します。

《メインヒューズ(B)》

- ヒューズホルダカバーを外し、ヒューズを点検します。



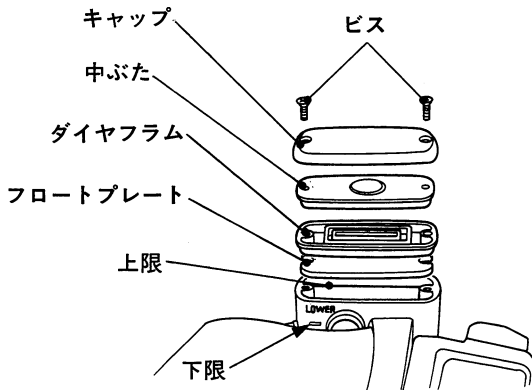
ブレーキ液の補給

ブレーキレバー

1. ハンドルを動かして、リザーバタンク上面を水平にします。
2. リザーバタンク外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3. ビスを外し、キャップ、中ぶた、ダイヤフラム、フロートプレートを取外します。
4. リザーバタンクの上限レベルラインまで指定ブレーキ液を補給します。
5. ダイヤフラムの方向性とかみ込みに注意して、ビスでキャップを確実に締付けます。

《指定液》

ホンダブレーキフルードDOT 4

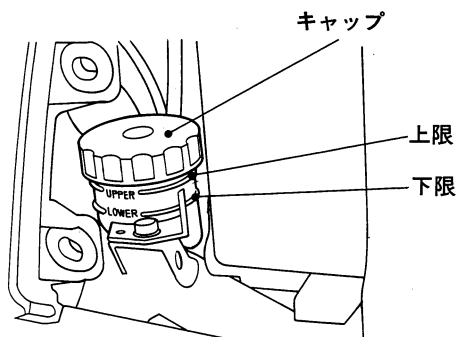


ブレーキペダル

1. 右サイドカバーを取外します。
サイドカバーの取外しは、61ページを参照してください。
2. リザーバタンクの外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3. キャップを外し、上限(UPPER)まで指定ブレーキ液を補給します。
4. キャップを確実に取付けます。
5. 右サイドカバーを取付けます。

《指定液》

ホンダブレーキフルードDOT 4



注意

- 上限レベルラインを越えて、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液がにじみ出ることがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。
- ブレーキ液の減り具合が著しいときは、ブレーキシステムの異常です。
- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
- ブレーキ液は塗装面をいためるので、部品類に付着させないでください。付着させたら、すぐに拭き取ってください。

冷却水の補給

通常はラジエータキャップを外さないでください。

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. ハンドルを右に動かす。
3. 冷却水レベルゲージの上限まで冷却水を補給します。

リザーバタンクに冷却水がない場合は、ホンダ販売店で点検整備を行ってください。

《指定液》

指定液：ホンダ純正ウルトララジエータ液

規定濃度：30%(寒冷地は50%)

濃度による不凍温度は

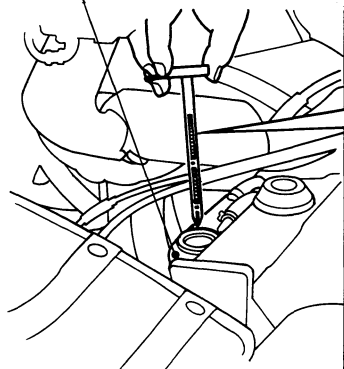
30%の場合 -16℃まで

50%の場合 -37℃まで

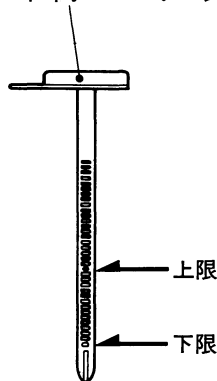
注意

- 冷却水の減り具合が著しいときはラジエータ本体、チューブなどからの漏れが考えられます。ホンダ販売店で点検整備を受けてください。
- ラジエータ液を薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
- 粗悪なラジエータ液を使用するとエンジンの寿命を縮めますので注意してください。

リザーバタンク



冷却水レベルゲージ

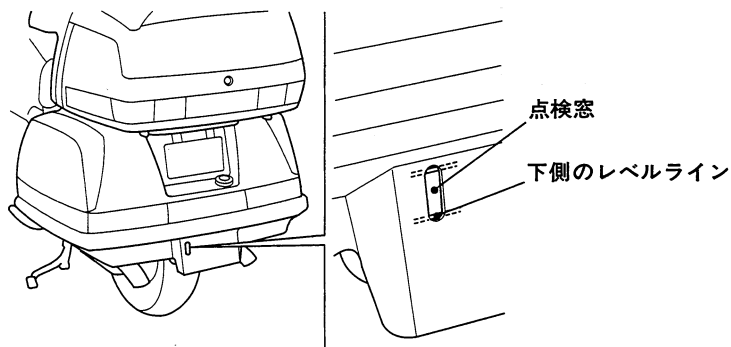


ウォッシャ液の点検・補給

《液量の点検》

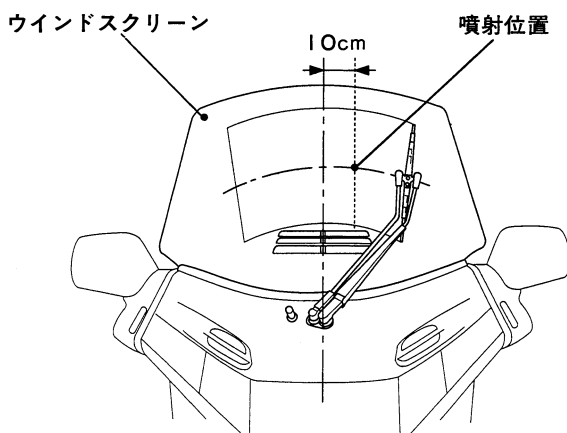
ウォッシャ液が十分にあるか点検窓で確認します。

液面が下側のレベルラインに達した場合は、ウォッシャ液を補給してください。



《噴射位置の点検》

ウォッシャスイッチを押して、ウォッシャ液が図の噴射位置に当たるか確認します。また、ウインドスクリーンを越え後方に飛ばないことを確認します。



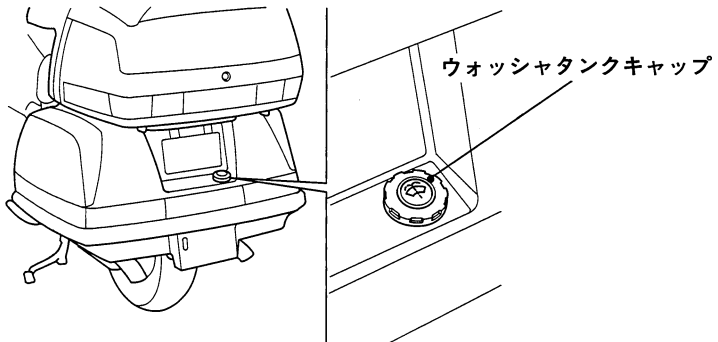
《補給》

ウォッシュタンクキャップを外し、ウォッシュ液を補給します。

ウォッシュ液は、注入口の口元まで補給できます。ウォッシュ液がこぼれたときは布で拭いてください。

注意

- 高濃度のウォッシュ液は、この車に使用できません。高濃度のウォッシュ液は、樹脂部品を損傷します。
凍結温度が -9°C より低いウォッシュ液は、高濃度のため使用しないでください。
- ウォッシュ液の濃度の使いわけおよび注意事項は、ウォッシュ液の容器に記載されています。ただし、濃度については、この取扱説明書に従ってください。
- 粗悪品、不凍液、石けん水および他のケミカル用品などを使うと樹脂部品や塗装面などに害を与えます。
- ウォッシュ液を補給するときは、ゴミ、ほこりなどが入らないように注意してください。ノズルのつまりや故障の原因となります。
- ウォッシュ液が出ないときは、お近くのホンダ販売店へお申しつけください。



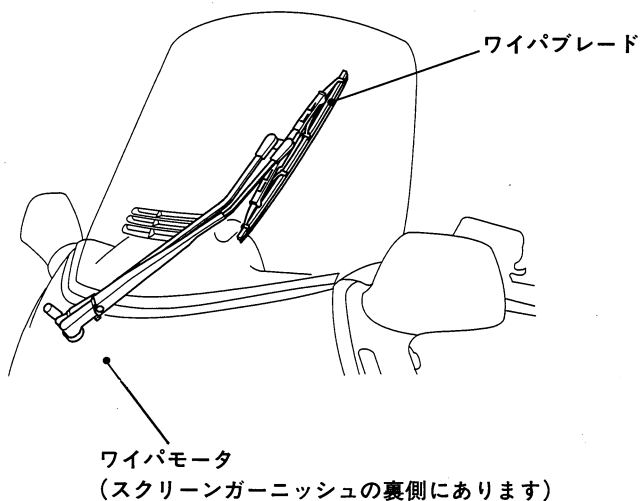
“ホンダウォッシュ液”をご使用の場合は、下表を参考に原液を水でうすめてください。原液での使用はできません。

使用条件	うすめる割合		凍結温度	備 考
	原 液	水		
冬 期	1	1	-9°C	1:1 より濃くしないでください
夏 期	1	3	-4°C	

ワイパの点検

ウォッシュ液を噴射させながら、ワイパを作動させ点検します。

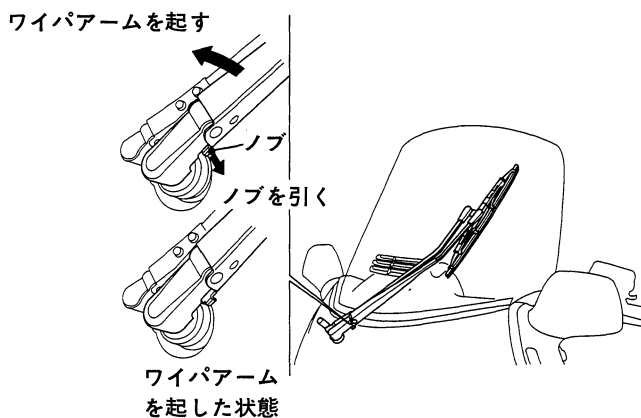
- ワイパの拭き取りが円滑かつ良好に行えるか確認します。
- ワイパモータやワイパブレードから異常な音が出ていないか確認します。



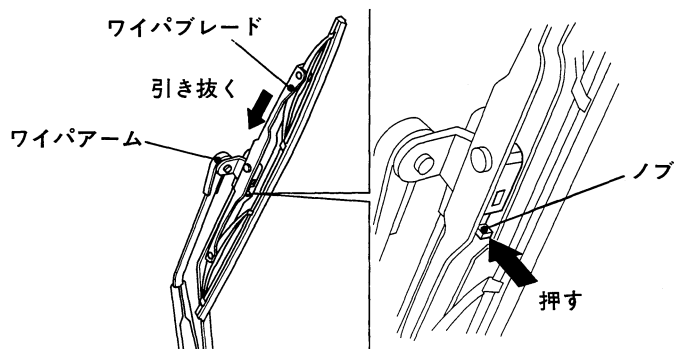
ワイパブレードラバーの交換

ワイパブレードラバーが傷んでいると、拭きむらがあるばかりでなくウインドスクリーンを傷つけることがありますので、早めに交換してください。

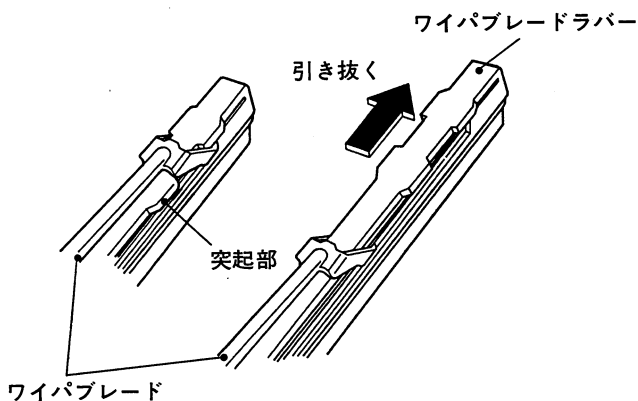
1. ワイパアームを起しノブを引きだして、アームを固定します。



2. ノブを押しながら、ワイパブレードを下方に引いてワイパアームから取外します。

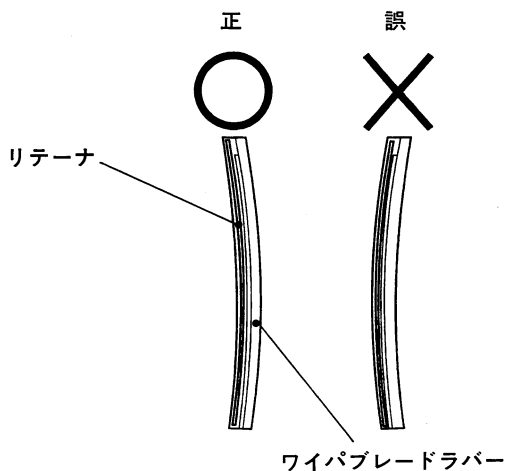


3. ワイパブレードラバーの突起部が外れるまでワイパブレードラバーを引き、そのままワイパブレードから引き抜きます。

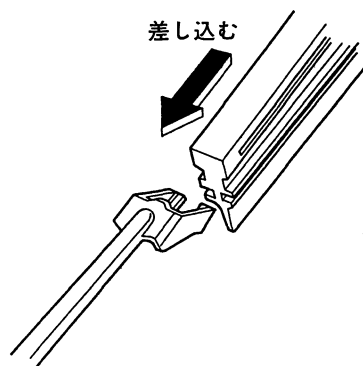


4. ワイパブレードラバーにリテーナが正しく組付けられていることを確認します。

リテーナはわん曲しています。図の「正」ように組付けます。



-
5. 新品のワイパブレードラバーを突起部の反対側からワイパブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



6. 取外しの逆手順でワイパブレードを取付けます。
7. ノブを押し込み、ワイパアームを戻します。

注意

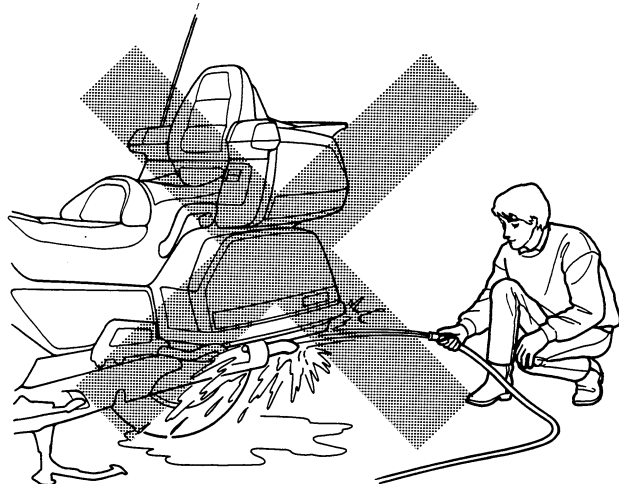
- ノブを引きだしワイパアームを起こした状態で走行しないでください。ワイパの故障の原因となります。

車のお手入れ

●洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまり、始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。

●洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかると効き具合が悪くなる場合があります。

洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。



●車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。



ウインドスクリーンの取扱い

ウインドスクリーンは樹脂部品のため、ガラス製と異なる注意が必要です。次の注意事項をお守りください。

注意

- ウインドスクリーンの表面が氷結している時は、スクレーパー、解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は使用せず、多量のぬるま湯をかけ解氷させてから、ワイパーで拭き取ってください。解氷剤や霜取り剤などのケミカル用品は、有機溶剤を含んでいますのでウインドスクリーンに悪影響を与えます。
- ウインドスクリーンの清掃は、水で洗い流しながら中性洗剤を含ませた柔らかい布またはスポンジで汚れを落とし、もう一度洗い流してから拭き取ってください。乾いた状態で拭くと、ウインドスクリーンに傷をつけますので避けてください。
ウインドスクリーンにワイパーブレードの摩耗物が付着した場合も、同様に清掃してください。
- ガソリン、シンナーなどの有機溶剤および酸性・アルカリ性の洗剤は、ウインドスクリーンに悪影響を与えますので使用しないでください。
- コンパウンドやワックスなどで磨かないでください。ウインドスクリーンに傷をつけます。
- 油膜とり剤、はっ水剤などのケミカル用品は、使用しないでください。有機溶剤を含んだケミカル用品は、ウインドスクリーンに悪影響を与えます。
- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液などの化学物質がメータ、ウインドスクリーン、ボディカバーなどの樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。

アルミ部品の取扱い

この車のホイールはアルミニウム合金を使用しています。アルミ部品の特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

《お手入れ》

- アルミ部品は、塩分などの汚れを嫌いますので、海水及び道路凍結防止剤などが付いたときには、早めに、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを落した後、十分に水洗いをしてから乾いた布で水分を拭き取ってください。

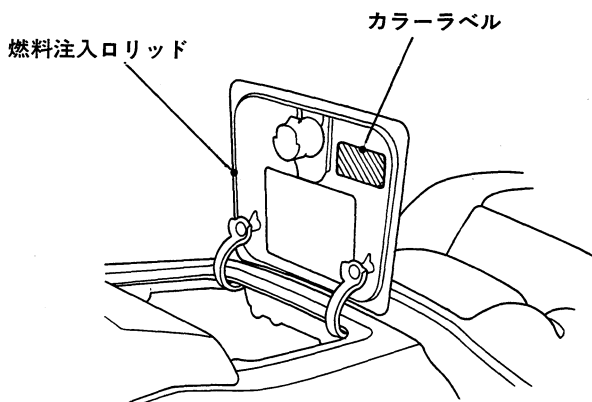
《取扱い》

- アルミ部品には、傷がつきやすいのでかためのものでこすったり、すり当てたりしないでください。
- 砂入り石鹼や硬いブラシは、アルミ部品を傷つけますので使用しないでください。

色物部品をご注文のとき

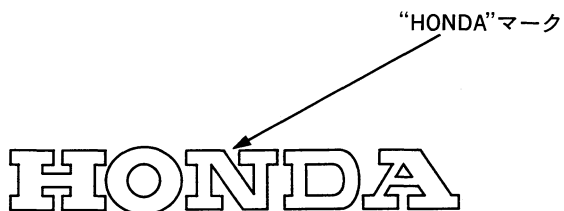
色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

カラーラベルは燃料注入口リッドの裏に貼ってあります。



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、ホンダ純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。



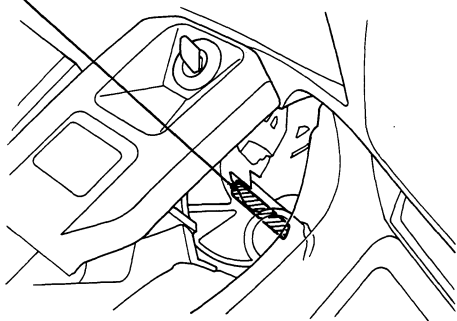
フレーム号機

フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

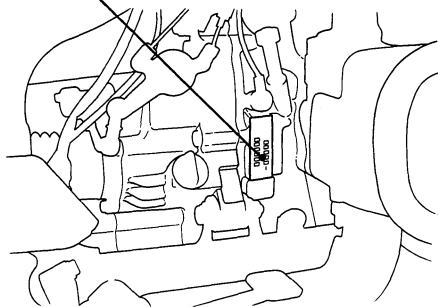
また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りともなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

- ・エンジン号機は、エンジン右側に打刻されています。61ページの要領で右フロントサイドカバーを取外すと、エンジン号機が確認できます。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。
- エンジンストップスイッチはRUNになっていますか。OFFの状態になっていたときは、次のことを行ってください。
 1. エンジンストップスイッチをOFFのままにします。
 2. チョークレバーを全部戻します。
 3. スロットルを全開にします。
 4. メインスイッチをONにします。
 5. スタータ/リバース(後退)ボタンを押して5～10秒エンジンを回します。
 6. ストップスイッチをRUNにし、64ページの始動要領でエンジンをかけてください。

《故障の修理》

- お近くのホンダ販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

型	式	SC22
長	さ	2,615mm
幅		955mm
高	さ	1,495mm
軸	距	1,690mm
原 動 機 種 類		ガソリン・4サイクル
総 排 気 量		1.520 ℓ
車 両 重 量		407kg
乗 車 定 員		2人
タ イ ヤ	前 輪	130/70-18 63H 130/70B18 63H
	後 輪	160/80-16 75H 160/80B16 75H
最 低 地 上 高		115mm
燃 料 消 費 率		26.1km/ℓ (車速60km/h)
制 動 停 止 距 離		16.0m (初速50km/h)
最 小 回 転 半 径		3.1m
圧 縮 比		9.8
圧 縮 圧 力		15.0kg/cm ² ・300rpm
最 高 出 力		97ps/5,000rpm (SAE)
最 大 ト ル ク		15.2kg-m/4,000rpm (SAE)
エ ン ジ ン オ イ ル 量		4.3 ℓ
燃 料 タ ン ク 量		23 ℓ
点 火 形 式		フルトランジスタ式バッテリー点火
点 火 時 期		BTDC3.5°/800rpm
点 火 プ ラ グ	N G K	DPR6EA-9 DPR7EA-9 DPR8EA-9
	日本電装	X20EPR-U9 X22EPR-U9 X24EPR-U9
蓄 電 池 (バ ッ テ リ)		12V-20Ah
機 関 から 変 速 機 まで の 減 速 比		1.591
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板ダイヤフラムスプリング
変 速 機 形 式		常時嚙合式
変 速 機 操 作 方 式		左足動式(後退は手動式)
変 速 比	1 速	2.666
	2 速	1.722
	3 速	1.272
	4 速	0.964
	O D	0.758
第 一 減 速 比		0.971
第 二 減 速 比		2.833

サービスデータ

ブレーキレバーの遊び		10~20mm	
ブレーキペダルの遊び		20~30mm	
クラッチレバーの遊び		10~20mm	
タイヤ空気圧	1人乗車	前輪	2.25kg/cm ²
		後輪	2.50kg/cm ²
	2人乗車	前輪	2.25kg/cm ²
		後輪	2.80kg/cm ²
エンジンオイルの量	全容量	4.3ℓ	
	オイルフィルタ交換時	3.7ℓ	
	オイル交換時	3.5ℓ	
ヒューズ	メインヒューズ①	30A	
	メインヒューズ②	55A	
	リバースリミットヒューズ	65A	
	リバースヒューズ	5A	
	ワイパヒューズ	15A	
	ヒューズボックス	15A, 10A, 5A	
点火プラグの点火すきま		0.8-0.9mm	
エアクリーナエレメント	形式	ろ紙式(ビスカスタイプ)	
電球(バルブ)	前照灯(ヘッドライト)	12V-45/45W	
	前面方向指示灯/ 非常点滅灯	12V-21W	
	後面方向指示灯/ 非常点滅灯	12V-23W	
	尾灯(テールランプ)	12V-7/27W	
	制動灯	12V-7/27W	
	番号灯	12V-5W	
	側方照射灯	12V-25W	

メ モ

メ モ